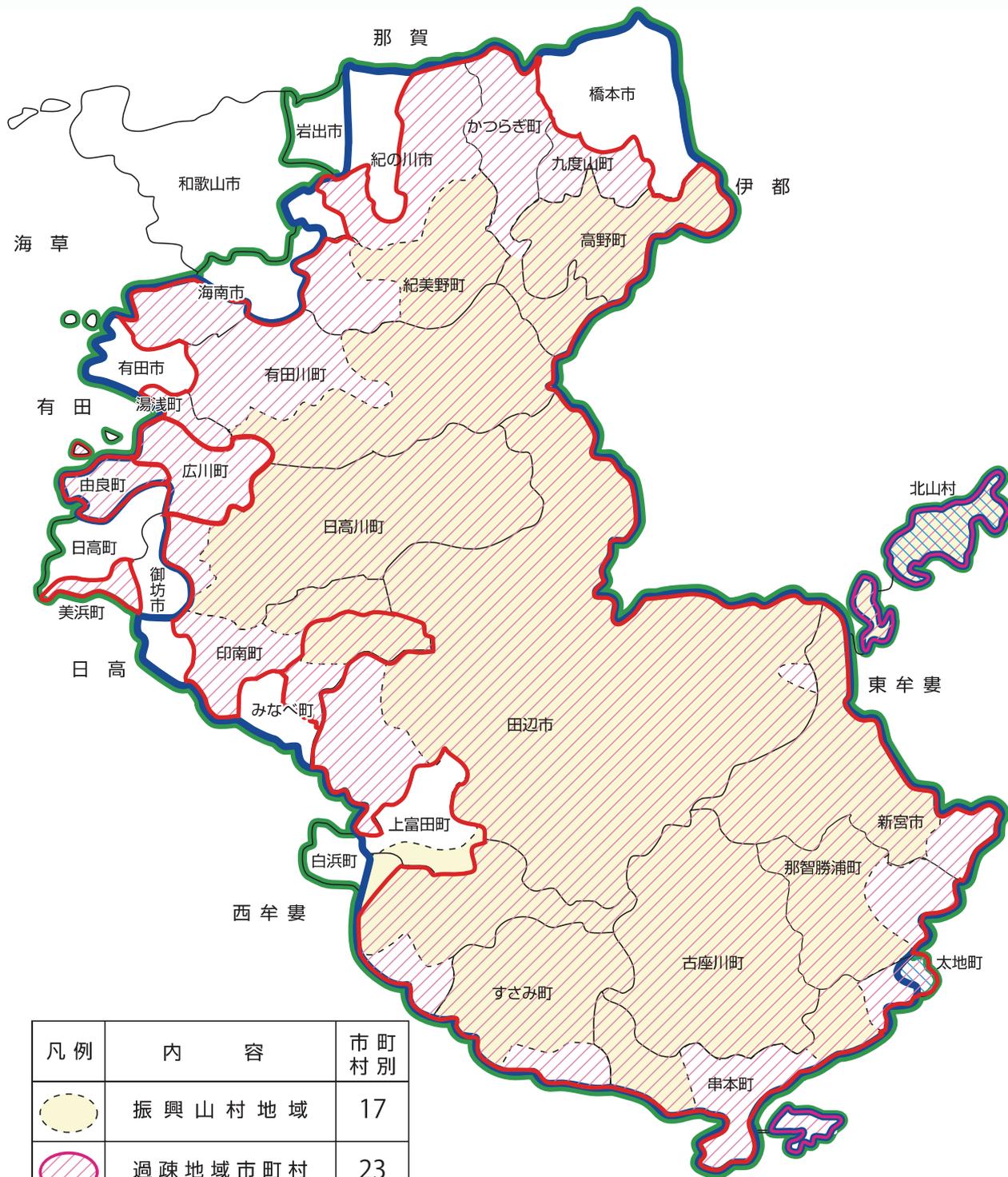




和歌山県の農林水産業

令和4年4月 和歌山県農林水産部

和歌山県の市町村



凡例	内容	市町村別
	振興山村地域	17
	過疎地域市町村	23
	農振法対象外地域	2
	特定農山村地域	25
	半島地域	29

令和4年4月1日現在

※特定農山村地域のうち、
 海南市（旧下津町）、御坊市（旧名田村）、白浜町（旧北富田村、旧東富田村、旧日置川町）は一部指定

※過疎地域のうち、
 海南市（旧下津町）、紀の川市（旧那賀町、旧桃山町、旧粉河町）、みなべ町（旧南部川村）、白浜町（旧日置川町）は一部指定

目 次

利用にあたって	1
I 和歌山県の農林水産業の特徴	4
1 和歌山県農林水産業の主要指標	4
2 和歌山県の農業の特徴	
1) 農業産出額の構成及び生産農業所得	5
2) 本県基幹農作物の全国シェア	6
3 和歌山県の林業の特徴	
1) 森林資源	7
2) 民有林（5条森林）の森林資源の概況	7
3) 林家の構成	7
4) 素材生産量	8
5) 特用林産物生産量	8
4 和歌山県の水産業の特徴	
1) 漁業種類別漁獲量	9
2) 魚種別漁獲量	9
II 和歌山県の農林水産業の動向	10
1 農業部門	
1) 農業指標	10
2) 農業を担う人々	11
3) 耕地面積	13
4) 農業生産	15
5) 農業所得と農業産出額	30
6) 農業農村整備事業の基盤整備状況	33
2 林業部門	
1) 林業を担う経営体（林業経営体）	34
2) 森林資源・林業生産基盤	35
3) 林業生産	38
4) 林業産出額	42
3 水産部門	
1) 水産業を担う人々	43
2) 水産業の基盤	44
3) 水産業の生産	45
4) 主な魚種別漁獲量・産出額の推移	46
III 農林水産関係施策を行っている主な課室	47

利用にあたって

I) 本資料は、公表されている最新の数値を基本に、和歌山県の農林水産業の概要を示したものです。

II) 公表されている数値の最新年次が全国と和歌山県で異なるなどのため、囲み掲載している「本県農林水産業の全国における位置」等、数値と本編の数値が一致しないものもあります。

III) 数値等の出典は図の下に () 書きで示しています。

ただし、「本県農林水産業の全国における位置」は農林水産省統計表に基づいています。また、単位未満の数値は四捨五入、あるいは下記のとおり四捨五入を行っている調査もあるため、内容の計は必ずしも合計と一致しません。

桁 数		7 桁 以 上	6 ～ 5 桁	4 ～ 3 桁	2 桁 以 下
四捨五入の方法		100の位を 四捨五入	10の位を 四捨五入	1 の位を 四捨五入	四捨五入 しない
例	四捨五入前	1,234,567	123,456	1,234	12
	四捨五入後	1,235,000	123,500	1,230	12

IV) 本資料で使われている主な統計用語は、次のとおりです。

(1) 農家とは………経営耕地面積が10アール以上であるか又は過去1年間の農産物販売金額が15万円以上あるかのどちらかの要件を満たしている世帯。

(2) 農業経営体とは…農産物の生産を行うか又は委託を受けて農作業を行い、生産又は作業に係る面積・頭羽数が、次の規定のいずれかに該当する事業を行う者。

(1)経営耕地面積が30 a 以上の規模の農業

(2)農作物の作付面積又は栽培面積、家畜の飼養頭羽数又は出荷羽数、その他の事業の規模が次の農業経営体の基準以上の農業

①露地野菜作付面積 15 a

②施設野菜栽培面積 350㎡

③果樹栽培面積 10 a

④露地花き栽培面積 10 a

⑤施設花き栽培面積 250㎡

⑥搾乳牛飼養頭数 1頭

利用にあたって

- ⑦肥育牛飼養頭数 1頭
- ⑧豚飼養頭数 15頭
- ⑨採卵鶏飼養羽数 150羽
- ⑩ブロイラー年間出荷羽数 1,000羽
- ⑪その他 調査期日前1年間における農業生産物の総販売額50万円に相当する事業の規模

(3)農作業の受託の事業

(3) 個人経営体とは…個人（世帯）で事業を行う経営体。なお、法人化して事業を行う経営体は含まない。

(ア) 主業経営体とは

農業所得が主(世帯所得の50%以上が農業所得)で、調査期日前1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいる個人経営体。

(イ) 準主業経営体とは

農外所得が主(世帯所得の50%未満が農業所得)で、調査期日前1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいる個人経営体。

(ウ) 副業的経営体とは

調査期日前1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいない個人経営体。

(エ) 基幹的農業従事者とは

15歳以上の世帯員のうち、ふだん仕事として主に自営農業に従事している者。

(4) 団体経営体とは…個人経営体以外の経営体。

(5) 単一経営経営体とは…農産物販売金額のうち、主位部門の販売金額が8割以上の経営体。

(6) 複合経営経営体とは…単一経営以外をいい、農産物販売金額のうち、主位部門の販売金額が8割未満(販売のなかった経営体を除く)の経営体。

(7) 経営耕地とは……調査期日現在で農業経営体が経営している耕地(けい畔を含む田、樹園地及び畑)をいい、自ら所有し耕作している耕地(自作地)と、他から借りて耕作している耕地(借入耕地)の合計。土地台帳の地目や面積に関係なく、実際の地目別の面積。

利用にあたって

- (8) 生産農業所得 = 農業総産出額 × 所得率 + 農業生産に関わる経常補助金
- (9) 農業産出額とは…………… 農業生産活動による最終生産物の総生産額であり、農産物別生産数量に農産物別農家庭先価格を乗じて算出したもの。都道府県を推計単位としている。
- (10) 林業経営体とは…………… 次のいずれかに該当する事業を行う者。
① 権原に基づいて育林又は伐採（立木竹のみを譲り受けてする伐採を除く。）を行うことができる山林の面積が3ha以上の規模の林業
② 委託を受けて行う育林若しくは素材生産又は立木を購入して行う素材生産の事業
- (11) 林業就業者とは…………… 15歳以上で特定の1週間の間に林業に従事した者。
- (12) 上記のうち主として林業に就業している者とは…………… 主に勤務や自営により林業の仕事をしていた場合。
- (13) 漁業経営体とは ……………… 過去1年間に利潤又は生活の資を得るために、生産物を販売することを目的として、海面において水産動植物の採捕又は養殖の事業を行った世帯又は事業所をいう。ただし、過去1年間における漁業の海上作業従事日数が30日未満の個人経営体は除く。

個人経営体 個人で漁業を自営する経営体。
- (14) 漁業就業者とは…………… 満15歳以上で過去1年間に漁業の海上作業に30日以上従事した者。
- (15) 漁業産出額とは…………… 漁業生産活動による最終生産物の総生産額であり、漁業・養殖業の魚種別生産量に魚種別産地市場価格等を乗じて算出したもの。

I 和歌山県の農林水産業の特徴

1 和歌山県農林水産業の主要指標

		農 業			林 業			水 産 業				
担 う 人 々	農 家	令2.2.1 戸	25,263		林 家	令2 戸	9,346					
	農業経営体	令2.2.1 経営体	18,141		林業経営体	令2 経営体	340	漁業経営体	平30 経営体	1,581		
	個人経営体	令2.2.1 %	17,976	100.0				うち	平30 経営体	1,535		
	うち 主業経営体	令2.2.1	5,732	31.9								
	うち 準主業経営体	令2.2.1	2,104	11.7								
	うち 副業的経営体	令2.2.1	10,140	56.4								
	うち 基幹的農業従業者(個人経営体)	令2.2.1 人	27,202		林業就業者	平27 人	1,145	漁業就業者	平30 人	2,402		
	団体経営体	令2.2.1 経営体	165		うち主として林業に 就業していた者		916	うち自営 漁業就業者	平30	1,594		
基 盤	耕地	令3 ha	31,600	100.0	森林面積	令3.4.1 ha	361,253	漁 船	令3 隻	4,011	100.0	
	水 田	令3	9,260	29.3	民 有 林	令3.4.1 %	344,155	ジ ー ゼ ル	令3	2,619	65.3	
	樹 園 地	令3	20,000	63.3	人 工 林	令3.4.1	206,864					
	普 通 畑	令3	2,250	7.1	天 然 林	令3.4.1	128,007					
	耕地利用率	令2 %	90.3		人工林 ha当蓄積	令3.4.1 m ³	487					
産 出 額	農業産出額	令2 億円	1,104	100.0	林業産出額	令2 百万円	3,820	100.0	漁業産出額	令2 百万円	12,693	100.0
	米	令2	78	7.1	木 材	令2	1,400	36.6	魚 類	令2	4,769	37.7
	果 実	令2	759	68.8	木 炭	令2	840	22.0	水産動物類	令2	1,185	9.3
	うち み かん	令2	292	26.4	その他特用林産物	令2	1,580	41.4	海産ほ乳類	令2	29	0.2
	うち う め	令2	217	19.7				貝 類	令2	94	0.7	
	野 菜	令2	141	12.8				海 藻 類	令2	87	0.7	
	花 き	令2	53	4.8				*海面養殖業	令2	6,529	51.4	
	畜 産	令2	35	3.2								
	所得 生産農業所得	令2 億円	453									

〔利用上の注意〕

農家調査は販売農家を抽出単位とし、センサスで確定された経営組織区分と県内農業地域に基づき部分母集団を設定した上で、部分母集団別に系統抽出された農家を対象とする標本調査であるため、その調査結果は推計による県計値となる。

(農林業の令和2年2月1日現在の数値は、2020年農林業センサスより)

(水産業を担う人々の数値は2018年漁業センサス、漁船の数値は「県漁船統計表」より)

*海面養殖業産出額については、平成29年より種苗の算出額が計上されないこととなり、平成19年以降の数値は種苗の算出額が含まれないものに修正されたため、平成18年以前と平成19年以降では連続しない。

2 和歌山県の農業の特徴

1) 農業産出額の構成及び生産農業所得

和歌山県の農業産出額の構成は全国・近畿とは大きく異なり、果実の構成比が68.8%と半分以上を占め果樹農業に特化している。

全 国 畜産>野菜>米 >果実>花き

近 畿 米 >野菜>果実>畜産>花き

和歌山 果実>野菜>米 >花き>畜産

単位：億円、%

令和2年	和歌山県		近 畿		全 国		全国シェア	順 位
	金額①	構成比	金 額	構成比	金 額②	構成比	(①/②)	
農業産出額	1,104	100	4,549	100	89,557	100	1.2	29
米	78	7.1	1,182	26.0	16,551	18.5	0.5	42
野 菜	141	12.8	1,099	24.2	22,520	25.1	0.6	37
果 実	759	68.8	962	21.1	8,741	9.8	8.7	3
花 き	53	4.8	160	3.5	3,080	3.4	1.7	20
畜 産	35	3.2	931	20.5	32,279	36.0	0.1	45
そ の 他	38	3.4	215	4.7	6,386	7.1	0.6	29
生産農業所得	453		1,701		33,621		1.3	27
農業産出額に占める 生産農業所得の割合	41.0		37.4		37.5			

(令和2年生産農業所得統計)

2) 本県基幹農作物の全国シェア（全国5位以内）

果樹王国「わかやま」

令和2年産出額全国順位

みかん 1位（全国シェア 18.3%）

うめ 1位（全国シェア 65.2%）

かき 1位（全国シェア 19.8%）

もも 5位（全国シェア 7.6%）

令和2年 農作物名	産出額		全国シェア (%)	1位	2位	3位	4位	5位
	和歌山県 (億円)	全 国 (億円)						
みかん	292	1,594	18.3	和歌山	愛媛	静岡	熊本	佐賀
うめ	217	333	65.2	和歌山	群馬	長野	福井	宮城
かき	86	434	19.8	和歌山	奈良	福岡	岐阜	愛知
はっさく	35	48	72.9	和歌山	広島	愛媛	徳島	香川
セミノール	3	5	60.0	和歌山	三重	愛媛	静岡	
さやえんどう	25	218	11.5	鹿児島	和歌山	愛知	熊本	北海道
スターチス	18	46	39.1	北海道	和歌山	長野	千葉	鹿児島
いちじく	12	71	16.9	愛知	和歌山	兵庫	福岡	大阪
清見	6	27	22.2	愛媛	和歌山	佐賀	大分	広島
不知火	13	167	7.8	熊本	愛媛	和歌山	佐賀	鹿児島
キウイフルーツ	13	94	13.8	愛媛	福岡	和歌山	神奈川	香川
宿根かすみそう	5	37	13.5	熊本	福島	和歌山	北海道	高知
ししとう	2	59	3.4	高知	千葉	和歌山	山形	徳島
いよかん	1	48	2.1	愛媛	佐賀	和歌山	山口	静岡
ネーブルオレンジ	1	12	8.3	静岡	広島	和歌山	愛媛	熊本
すもも	10	92	10.9	山梨	長野	山形	和歌山	福岡
なつみかん	3	51	5.9	鹿児島	熊本	愛媛	和歌山	三重
ガーベラ	2	35	5.7	静岡	福岡	長崎	和歌山	愛知
もも	45	592	7.6	山梨	福島	岡山	長野	和歌山
ぼんかん	3	39	7.7	愛媛	鹿児島	高知	熊本	和歌山

※全国で産出額が50億円以上（花きについては30億円以上）の品目で、本県が5位以内のもの（令和2年生産農業所得統計）

※本編での「えんどう」とは、うすいえんどう、きぬさやえんどう、オランダを合算したもの

3 和歌山県の林業の特徴

森林資源の概況

2017年現在の和歌山県の森林面積は361,328ha、森林率は77%で全国第8位。その内、民有林面積は343,866haで95%を占める。なお、民有林は、個人有林や会社有林などの私有林と、県有林や市町村有林などの公有林で構成される。

林家

2020年現在の林家数は9,346戸であるが保有林5ha以下の林家が全体の70.1%を占める。保有山林規模100ha以上の林家では、林家数の1.2%を占めるにすぎないが、保有面積で42.8%を占めている。

1) 森林資源 ～民有林を主とした森林資源の維持造成～ 単位：％、千ha

	全 国 %	和歌山 %	順位	全 国 順 位 (上位5道府県)				
				1位	2位	3位	4位	5位
森 林 率	67.2	76.5	8位	高 知	岐 阜	長 野	島 根	山 梨
国 有 林 面 積	7,659	17	34位	北 海 道	福 島	青 森	秋 田	岩 手
民 有 林 面 積	17,389	344	21位	北 海 道	岩 手	長 野	岐 阜	福 島

(林野庁計画課「森林資源の現況」平成29.3.31現在)

2) 民有林(5条森林)の森林資源の概況 ～人工林(ひのき)の蓄積は、全国屈指の資源量～ 単位：千ha、千m³

	全 国	和歌山	順位	全 国 順 位 (上位5道府県)				
				1位	2位	3位	4位	5位
人 工 林 面 積	7,903	210	13位	北 海 道	長 野	岩 手	岐 阜	高 知
人 工 林 蓄 積	2,792,601	80,473	17位	北 海 道	高 知	岩 手	宮 崎	福 島
うち すぎ	1,706,966	38,726	20位	宮 崎	福 島	秋 田	高 知	徳 島
うち ひのき	635,102	40,325	3位	高 知	岐 阜	和歌山	愛 媛	熊 本

(林野庁計画課「森林資源の現況」平成29.3.31現在)

【参考】北海道の人工林は、からまつ・とどまつ・えぞまつを中心とした資源構成。

※5条森林とは、森林法第5条第一項に基づく地域森林計画の対象となっている森林をいう。

3) 林家の構成 ～小規模林家による森林所有と大規模森林所有者による林業経営～ 保有山林面積規模別林家数と面積 (和歌山県) 単位：戸、ha、％

	累 計	1～5	5～10	10～20	20～50	50～100	100以上
林 家 数	9,346	6,551	1,310	772	472	131	110
構成比	100	70.1	14.0	8.3	5.0	1.4	1.2
面 積	94,099	14,070	8,503	9,770	13,158	8,318	40,280
構成比	100	15.0	9.0	10.4	14.0	8.8	42.8

(2020年農林業センサス)

(注記)

※本表における林家とは、保有山林面積が1ha以上の世帯をいう。

保有山林面積規模別林家数と面積 (全国) 単位：戸、ha、％

	累 計	1～5	5～10	10～20	20～50	50～100	100以上
林 家 数	690,047	511,744	92,982	50,083	26,398	5,683	3,157
構成比	100	74.2	13.4	7.3	3.8	0.8	0.5
面 積	4,590,521	1,074,983	605,530	645,510	738,633	365,559	1,160,306
構成比	100	23.4	13.2	14.1	16.1	7.9	25.3

(2020年農林業センサス)

(注記)

※本表における林家とは、保有山林面積が1ha以上の世帯をいう。

4) 素材生産量

和歌山県では、素材生産量の増産を図るため、森林ゾーニングにより素材生産を行う「経済林」と森林保全を行う「環境林」とに区分し、施策の選択と集中を強化している。

単位：千m

令和2年	全国	和歌山県			全国順位（上位5道県）					
		順位	シェア(%)	1位	2位	3位	4位	5位		
素材生産量	合計	19,882	244	26	1.2	北海道	宮崎	岩手	秋田	大分
	針葉樹	18,037	237	24	1.3	北海道	宮崎	岩手	秋田	大分
	すぎ	11,663	150	21	1.3	宮崎	秋田	大分	青森	熊本
	ひのき	2,722	87	13	3.2	熊本	岡山	愛媛	高知	大分
	広葉樹	1,845	7	32	0.4	北海道	岩手	福島	秋田	島根

(木材需給報告書、県林業振興課業務資料)

5) 特用林産物生産量

和歌山県の特用林産物は、全国的に知名度の高い紀州備長炭をはじめとする多くの種類が生産されている。

単位：t

令和2年	全国	和歌山県			全国順位（上位5道県）				
		順位	シェア(%)	1位	2位	3位	4位	5位	
白炭	2,948.3	1,044.7	2	35.4	高知	和歌山	宮崎	大分	岩手
黒炭	4,878.4	2.8	41	0.1	岩手	北海道	熊本	鹿児島	栃木
乾しいたけ	2,302.1	4.9	33	0.2	大分	宮崎	熊本	岩手	愛媛
生しいたけ	70,279.6	1,109.0	20	1.6	徳島	北海道	岩手	群馬	秋田

(特用林産基礎資料、県林業振興課業務資料)

4 和歌山県の水産業の特徴

本県の主な漁業生産の全国シェア

南北に長いリアス式海岸線を擁する和歌山県では、各地で沿岸・沖合漁業を中心に多種多様な漁業が営まれている。

1) 漁業種類別漁獲量

令和元年	漁業種類別漁獲量		全 国 シェア (%)	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	7 位	8 位	9 位	10位
	和歌山県 (トン)	全 国 (トン)											
ひき縄釣	937	11,599	8.1	高 知	沖 縄	長 崎	和歌山	福 岡	三 重	宮 崎	兵 庫	鹿 児 島	東 京
沿岸かつお一本釣	282	13,043	2.2	高 知	三 重	宮 崎	鹿 児 島	沖 縄	和歌山	神 奈 川			
近海まぐろはえ縄	319	32,401	1.0	高 知	宮 崎	宮 城	沖 縄	大 分	三 重	和歌山			
沿岸まぐろはえ縄	13	3,901	0.3	宮 崎	沖 縄	青 森	千 葉	岩 手	北 海 道	宮 城	東 京	高 知	和歌山

2) 魚種別漁獲量

令和元年	魚種別漁獲量		全 国 シェア (%)	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	7 位	8 位	9 位	10位
	和歌山県 (トン)	全 国 (トン)											
いせえび	130	1,023	12.7	三 重	千 葉	和歌山	徳 島	静 岡	宮 崎	高 知	鹿 児 島	神 奈 川	茨 城
たちうお	467	6,395	7.3	千 葉	長 崎	熊 本	鹿 児 島	和歌山	神 奈 川	愛 媛	宮 城	徳 島	大 分
むろあじ類	604	12,482	4.8	宮 崎	長 崎	鹿 児 島	兵 庫	高 知	和歌山	静 岡	三 重	山 口	福 岡
い さ き	170	3,384	5.0	長 崎	福 岡	山 口	三 重	島 根	和歌山	鹿 児 島	高 知	千 葉	愛 媛
海産ほ乳類	131	336	39.0	和歌山	岩 手	北 海 道	京 都	石 川	宮 城	長 崎	青 森	新 潟	三 重
養殖くろまぐろ	1,252	18,167	6.9	長 崎	鹿 児 島	高 知	愛 媛	和歌山	大 分	三 重			
養殖まだい	1,867	65,973	2.8	愛 媛	熊 本	高 知	三 重	長 崎	和歌山	静 岡	鹿 児 島	宮 崎	香 川
内水面養殖あゆ	630	4,044	15.6	愛 知	岐 阜	和歌山	栃 木	滋 賀	徳 島	宮 崎	福 岡	熊 本	大 分

注 海産ほ乳類については、徳島・宮崎が秘密保護のため順位に含まれていない。

注 養殖くろまぐろについては、京都・島根・山口・熊本・沖縄が秘密保護のため順位に含まれていない。

注 養殖まだいについては、千葉・東京・大阪・兵庫・山口・徳島・福岡・沖縄が秘密保護のため順位に含まれていない。

注 内水面養殖あゆについては、北海道・青森・岩手・宮城・秋田・福島・東京・新潟・富山・長野・兵庫・奈良・鳥取・島根・岡山・愛媛・高知・福岡・鹿児島が秘密保護のため順位に含まれていない。

II 和歌山県の農林水産業の動向

1 農業部門

1) 農業指標

本県の農業経営体は18,141経営体で、うち個人経営体は17,976経営体である。個人経営体のうち主業経営体が31.9%、準主業経営体は11.7%、副業的経営体は56.4%で、65歳未満の世帯員がいない副業的経営体の比率が高い。(2020年農林業センサスより)

耕地面積は31,800haであり、その利用形態は水田29.3%、樹園地63.5%、普通畑7.1%である。

農業産出額は(令和2年)1,104億円(構成比:※7.1% 果実68.8% 野菜12.8% 花き4.8% 畜産3.2%)

	令和2年		海草	那賀	伊都	有田	日高	西牟婁	東牟婁
総農家	25,263		5,200	4,114	3,304	3,746	4,556	3,560	783
農業経営体	18,141		3,330	2,997	2,238	3,232	3,608	2,404	332
個人経営体	17,976	100.0%	3,309	2,975	2,216	3,200	3,580	2,374	322
主業経営体	5,732	31.9	749	853	497	1,332	1,373	875	53
準主業経営体	2,104	11.7	399	354	289	342	417	273	30
副業的経営体	10,140	56.4	2,161	1,768	1,430	1,526	1,790	1,226	239
団体経営体	165		21	22	22	32	28	30	10
	令和2年		海草	那賀	伊都	有田	日高	西牟婁	東牟婁
耕地面積	31,800	100.0%	5,715	5,062	3,563	5,395	6,184	5,011	878
水田	9,330	29.3	2,437	1,771	888	492	1,938	1,218	591
樹園地	20,200	63.5 (100.0)	2,739	3,088	2,538	4,707	3,517	3,523	126
みかん	7,330	36.3	1,756	761	234	3,603	339	639	2
はっさく	930	4.6	70	533	71	104	126	24	2
うめ	5,350	26.5	110	158	168	49	2,468	2,387	9
もも	725	3.6	36	568	120	1	0	0	0
かき	2,530	12.5	204	619	1,685	9	6	1	2
普通畑	2,270	7.1	538	203	135	220	736	277	161
	令和2年		海草	那賀	伊都	有田	日高	西牟婁	東牟婁
農業産出額	1,104	100.0%	1,508	1,838	1,140	2,264	2,429	1,676	172
米	78	7.1	237	150	70	38	160	99	27
果実	759	68.8	837	1,176	866	1,967	1,390	1,332	24
野菜	141	12.8	294	254	103	48	595	80	36
花き	53	4.8	—	—	—	—	—	—	—
畜産	35	3.2	58	52	66	61	22	25	61

※ ラウンドしているため、各数値の積上げが、合計と一致しない場合があります。

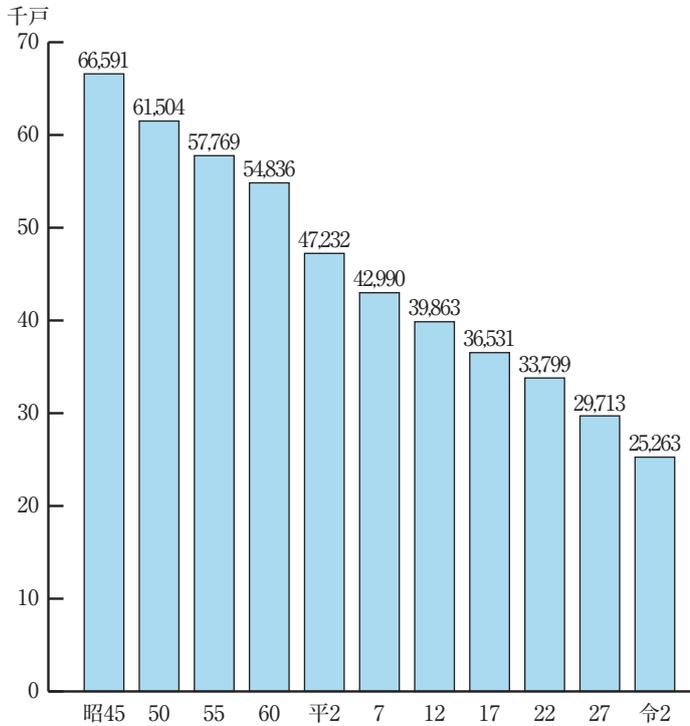
花きの地域別農業産出額は、秘密保護による非公表の市町村が多いため掲載しない。

(2020年農林業センサス・農林水産統計年報・市町村別統計検討協議会調べ)

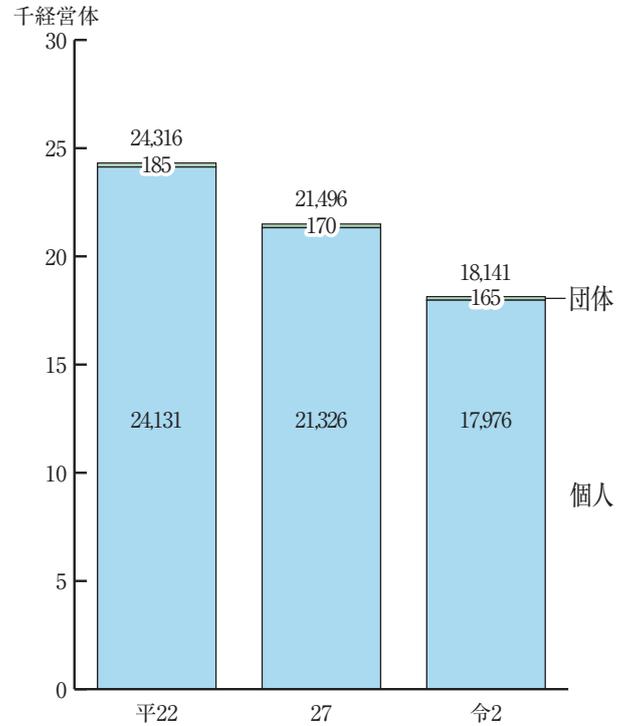
2) 農業を担う人々

令和2年の農家戸数は25,263戸で減少傾向が続いている。経営規模が1ha未満の農業経営体が61.1%を占める。年齢別の基幹的農業従事者では65歳以上の占める割合が63.9%となっている。平成7年以降、新規就農者数は増加傾向にある。

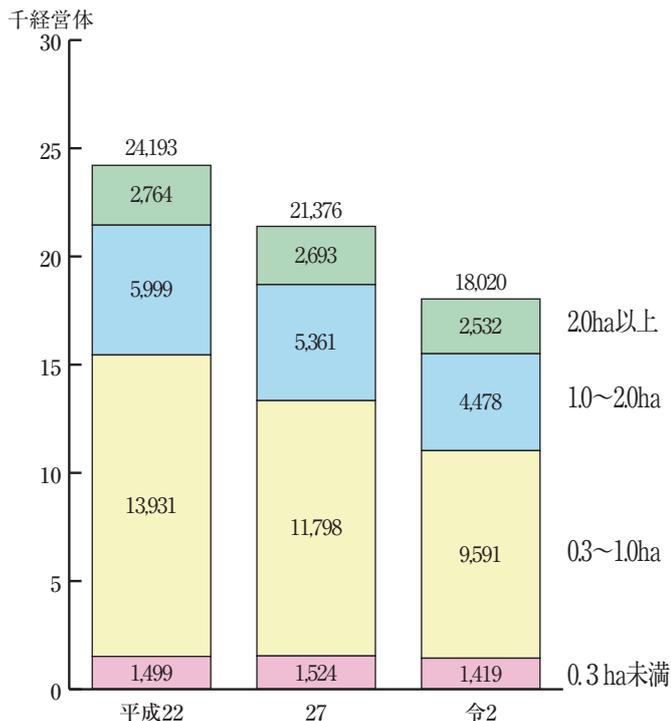
農家数の推移



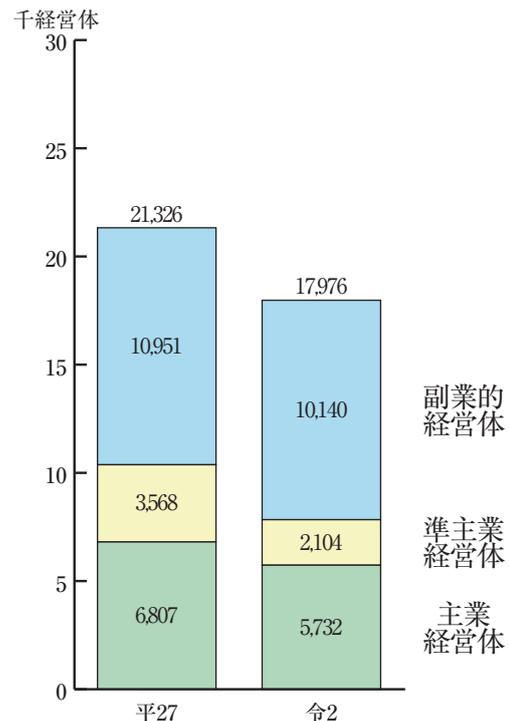
農業経営体数の推移



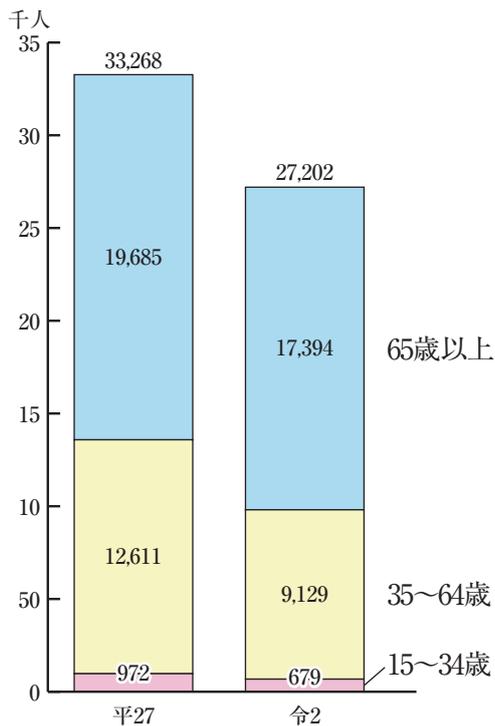
経営規模別経営体数(経営耕地のある経営体)の推移



主副業別農業経営体数(個人経営体)の推移



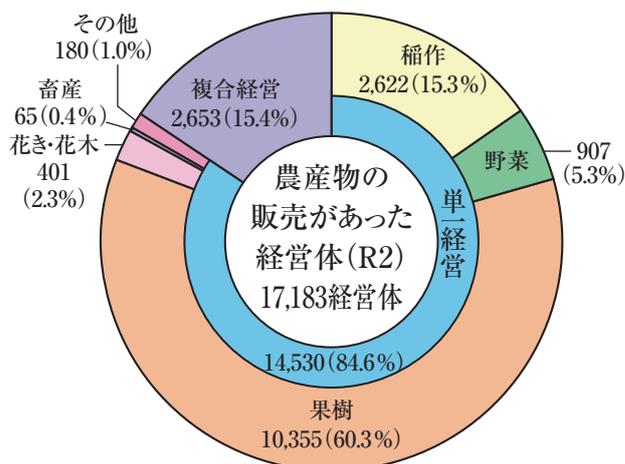
年齢別基幹的農業従事者数(個人経営体)の推移



〔令2〕	全国	和歌山県		1位	2位	3位	
	実数	実数	順位	シェア (%)	県名	県名	県名
総農家数	1,747,079	25,263	33	1.4	長野	茨城	兵庫
販売農家数	1,027,892	17,250	29	1.7	茨城	新潟	福島

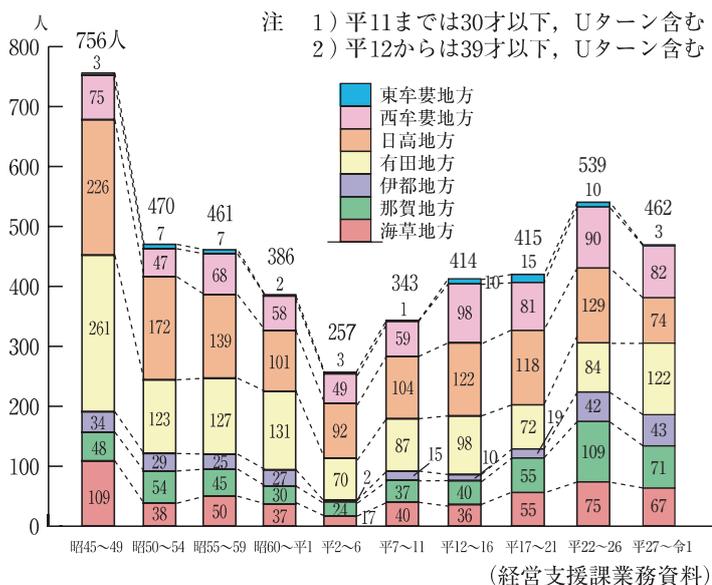
(2020年農林業センサス)

農業経営組織別経営体数(令和2年)



(2020年農林業センサス)

新規就農者数の推移

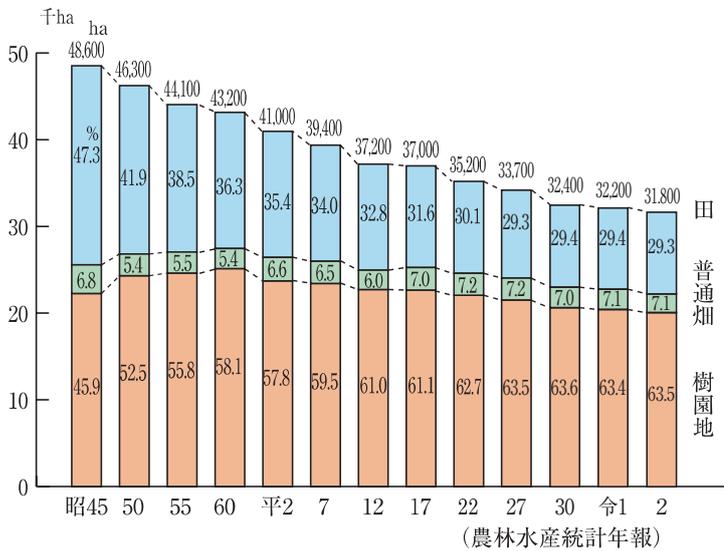


(経営支援課業務資料)

3) 耕地面積

耕地面積は減少傾向にあるなかで樹園地の比率が高まっている。
 施設面積は平成9年の909ha(耕地面積の2.3%)をピークに減少している。

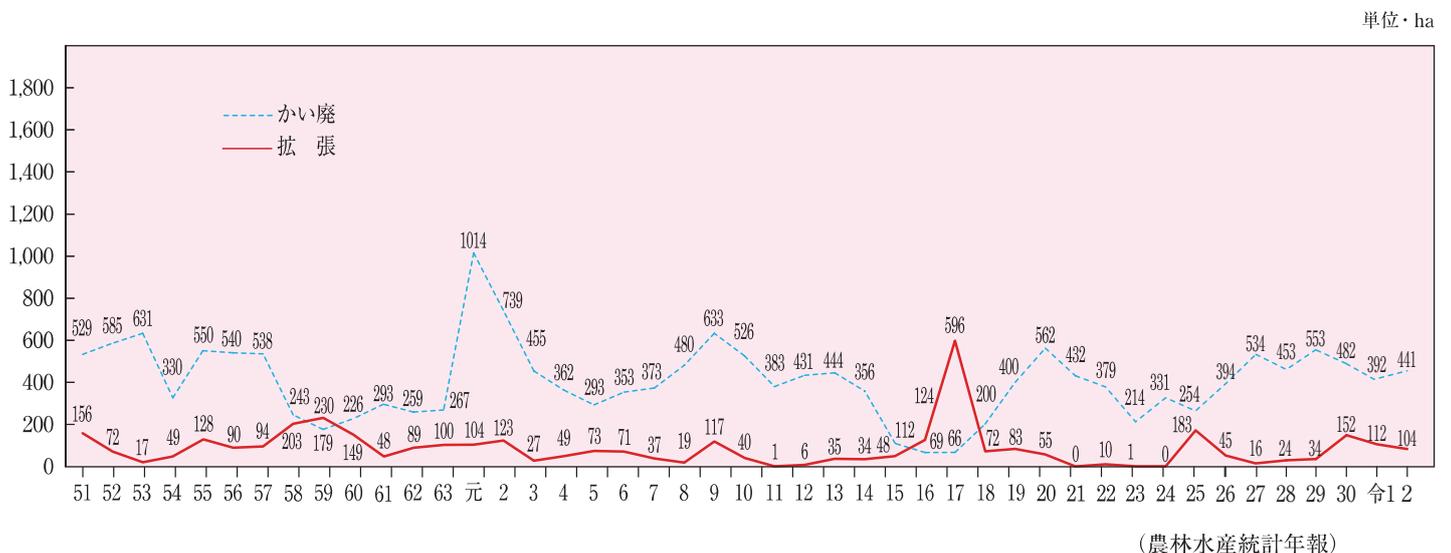
田畑別耕地面積の推移



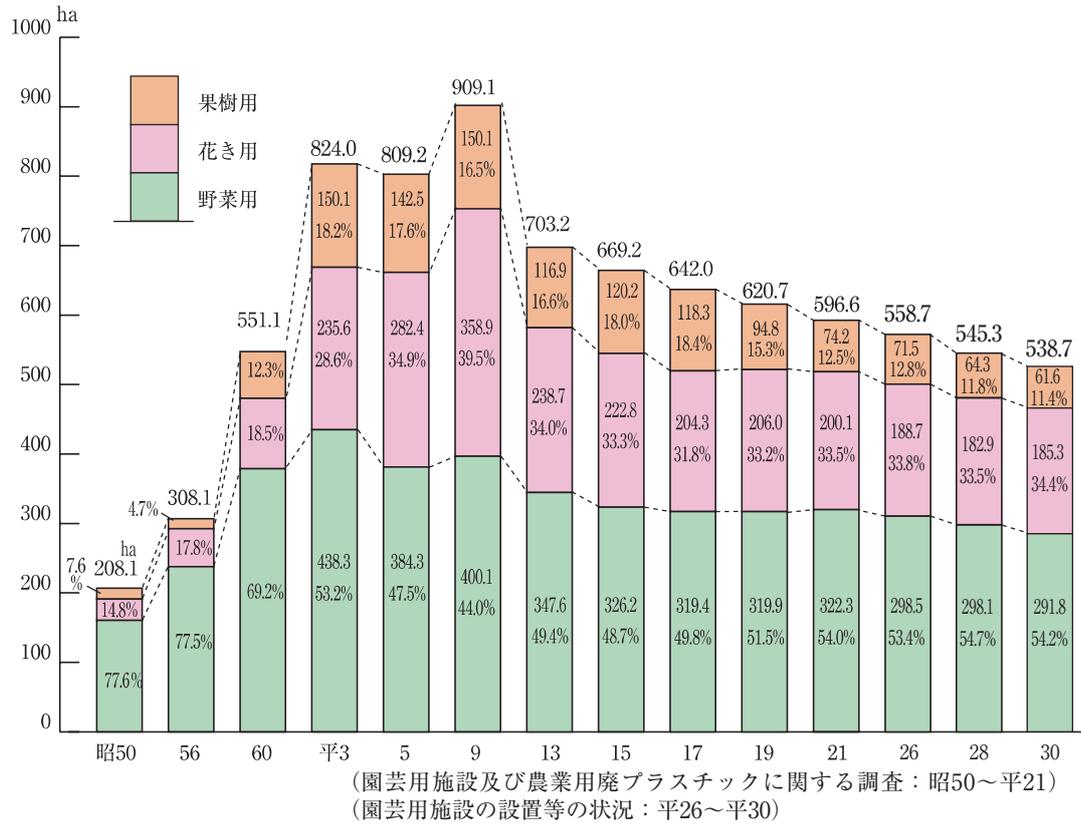
耕地面積

〔令2〕	全国		和歌山県		1位	2位	3位
	実数	実数	順位	シェア (%)	県名	県名	県名
耕地面積合計(ha)	4,372,000	31,800	38	0.7	北海道	新潟	茨城
田	2,379,000	9,330	42	0.4	北海道	新潟	秋田
畑	1,993,000	22,500	20	1.1	北海道	鹿児島	青森

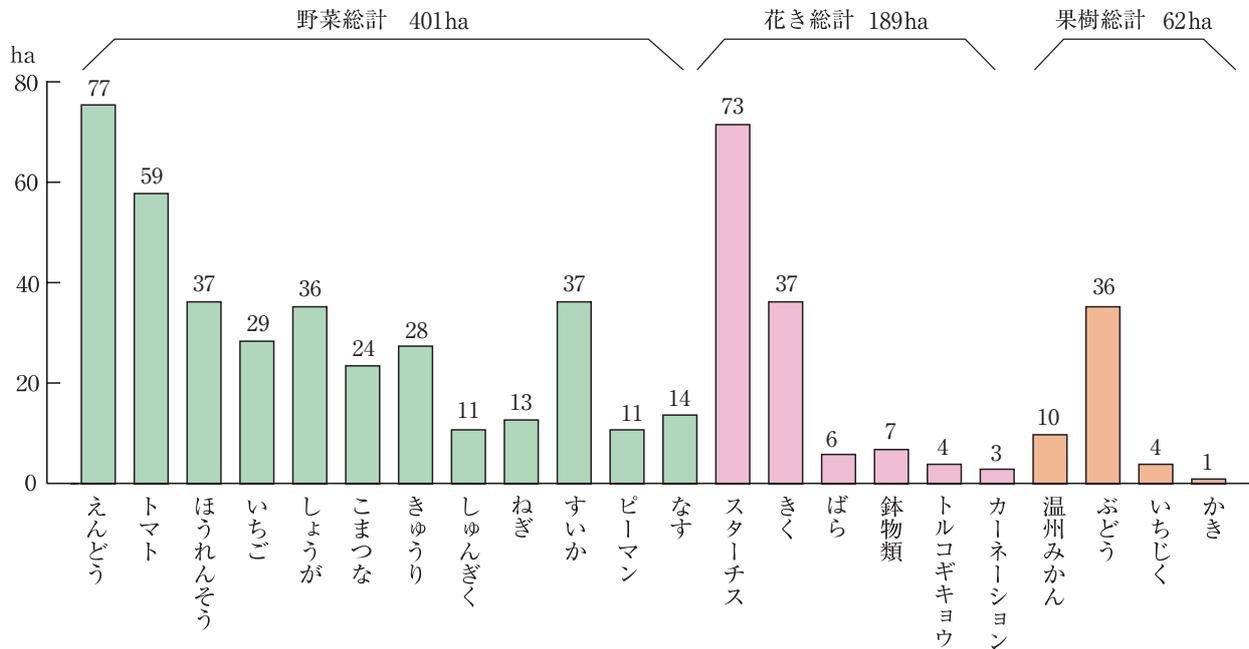
耕地の拡張・かい廃の推移



施設設置面積の推移



主要品目別施設栽培延面積（平30）



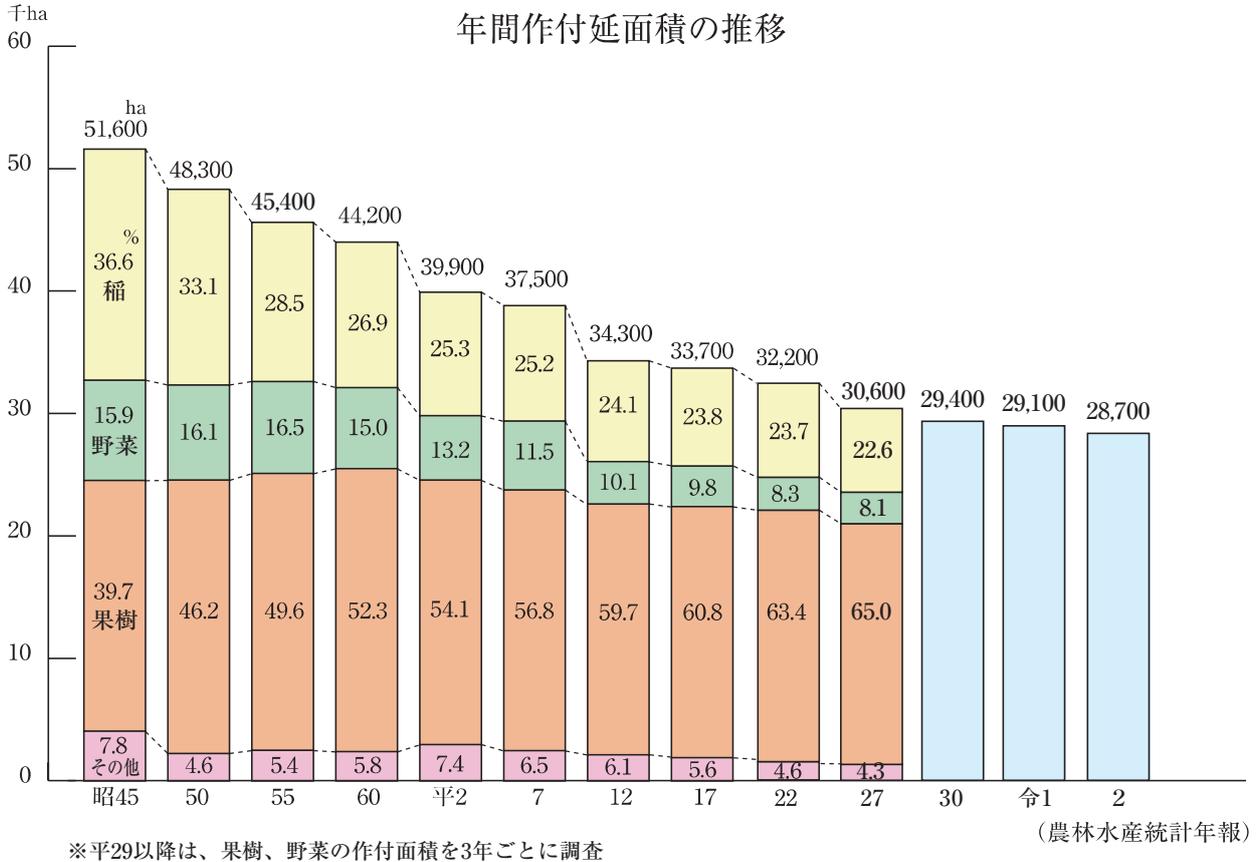
施設園芸作付延面積の推移

	昭50	55	60	平2	5	9	13	15	17	19	21	26	28	30
野菜	197	358	663	580	459	474	432	380	382	377	419	400	408	401
花き	35	79	180	276	353	413	266	210	220	211	205	176	199	189
果樹	16	15	80	137	174	150	117	120	118	92	74	72	64	62
合計	248	452	923	993	986	1,037	815	710	720	680	698	648	671	652

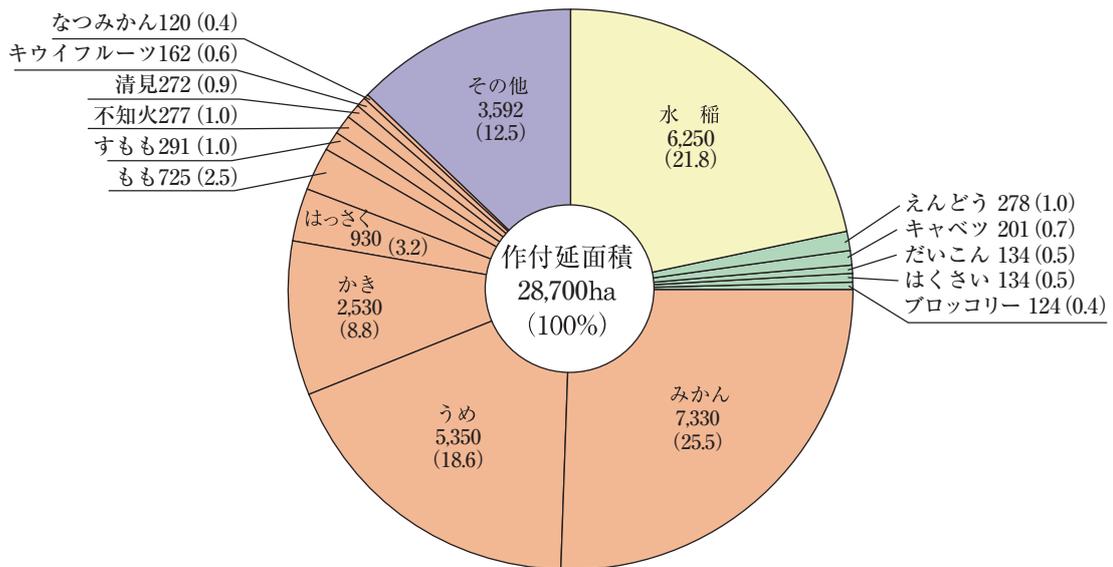
(園芸用施設及び農業用廃プラスチックに関する調査：昭50～平21)
(園芸用施設の設置等の状況：平26～平30)

4) 農業生産

作付面積は年々減少傾向にある。



作付面積の構成 (令2)



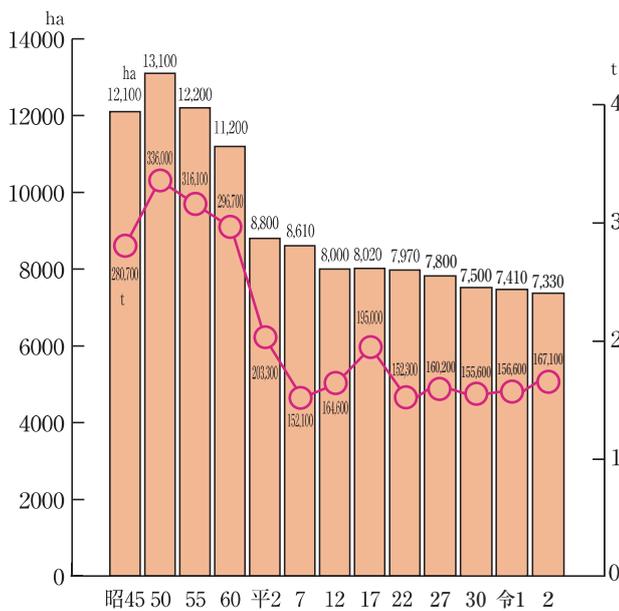
(農林水産統計年報・市町村別統計検討協議会調べ)

かんきつ類の栽培面積及び収穫量の推移

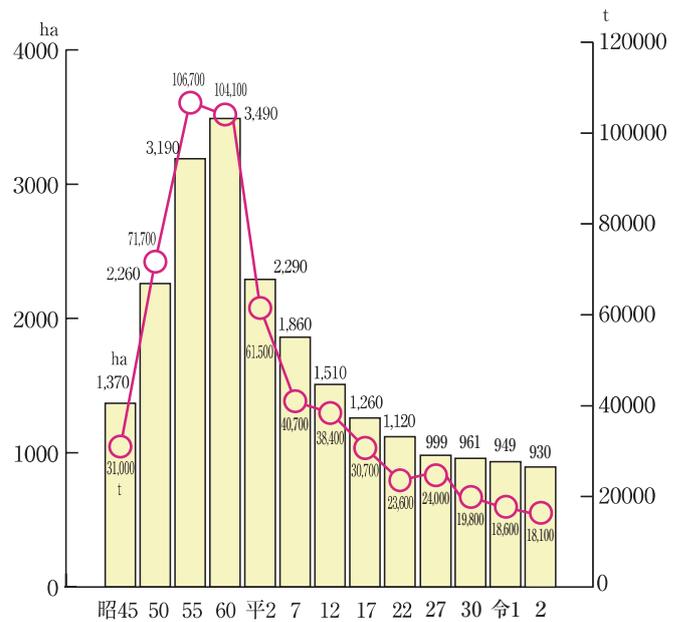
- みかん：みかんの生産過剰とオレンジ輸入自由化により、昭和50年から平成2年にかけて栽培面積は急激に減少するが、平成2年から緩やかな減少傾向となる。
- はっさく：みかんの転換作物として昭和60年まで栽培面積が増加したが、その後減少傾向に転じ、近年はその傾向が鈍化している。
- 不知火：みかん・なつみかん・いよかん等の転換作物として栽培面積は増加傾向にある。

令和2年の全国順位とシェア（栽培面積）—— みかん1位（18.4%）

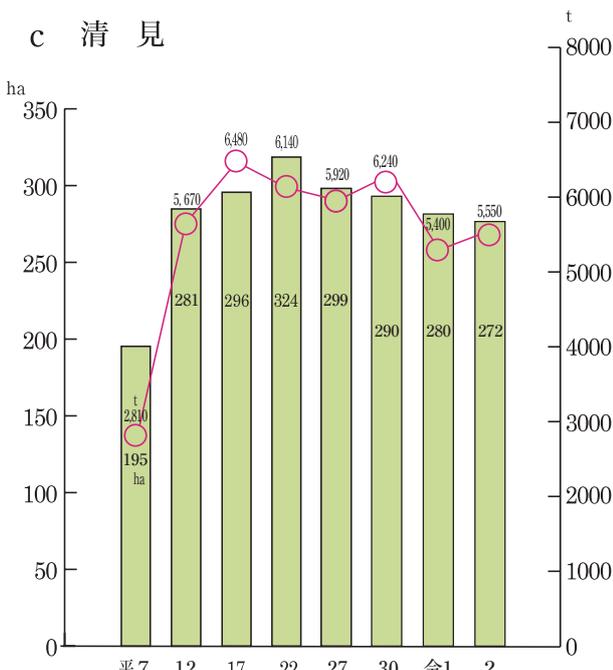
a みかん



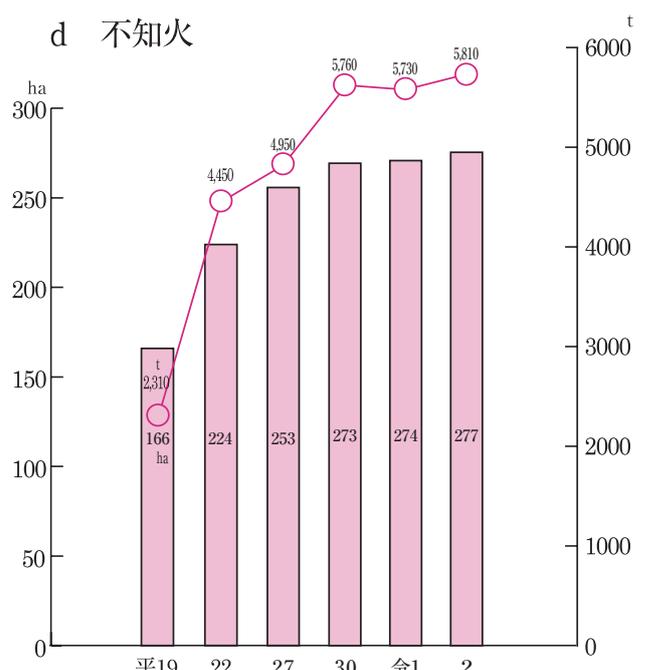
b はっさく



c 清見



d 不知火

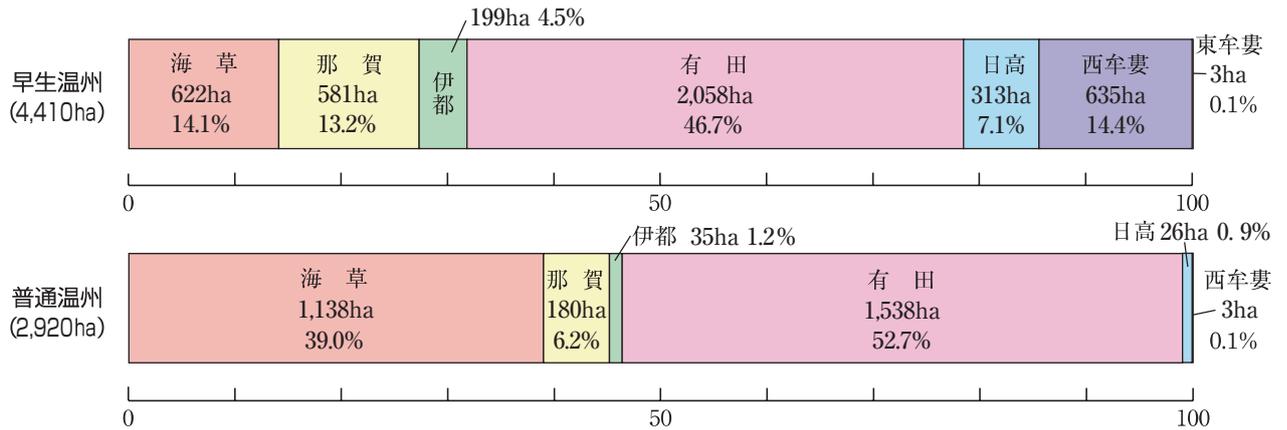


栽培面積 (ha)

収穫量 (t)

(農林水産統計年報・市町村別統計検討協議会調べ)

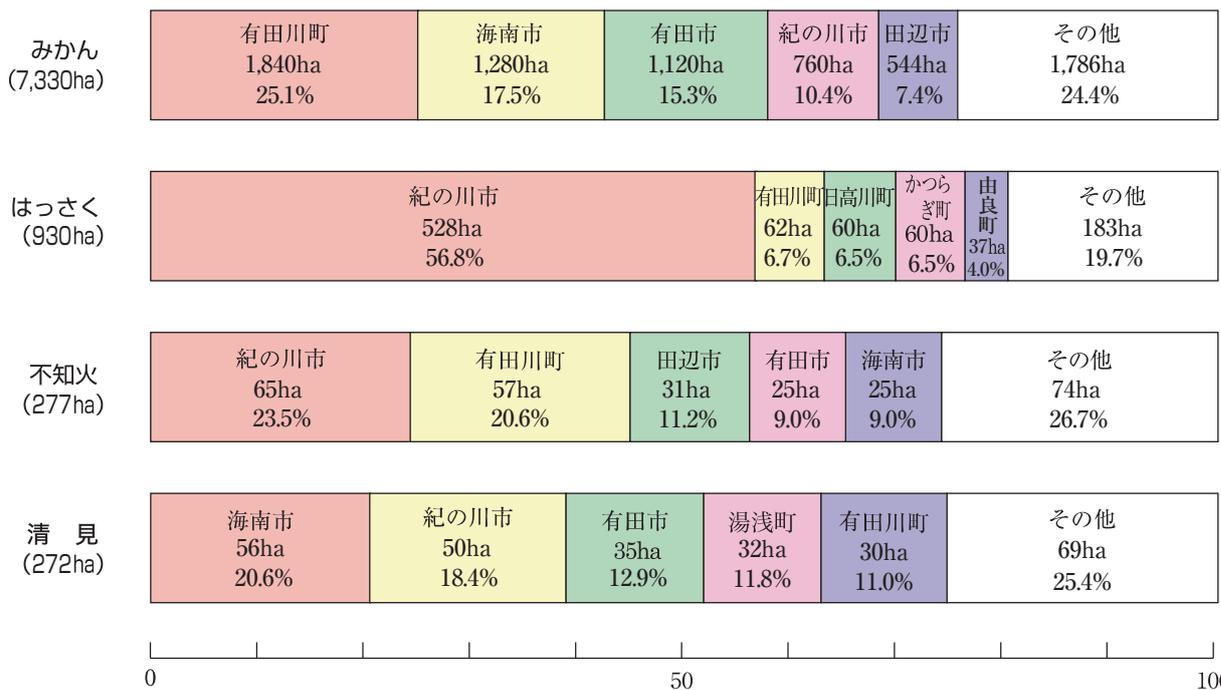
地域別・みかんの栽培面積（令2）



(市町村別統計検討協議会調べ)

市町村別・かんきつ類の栽培面積

〔上位5市町村〕（令2）



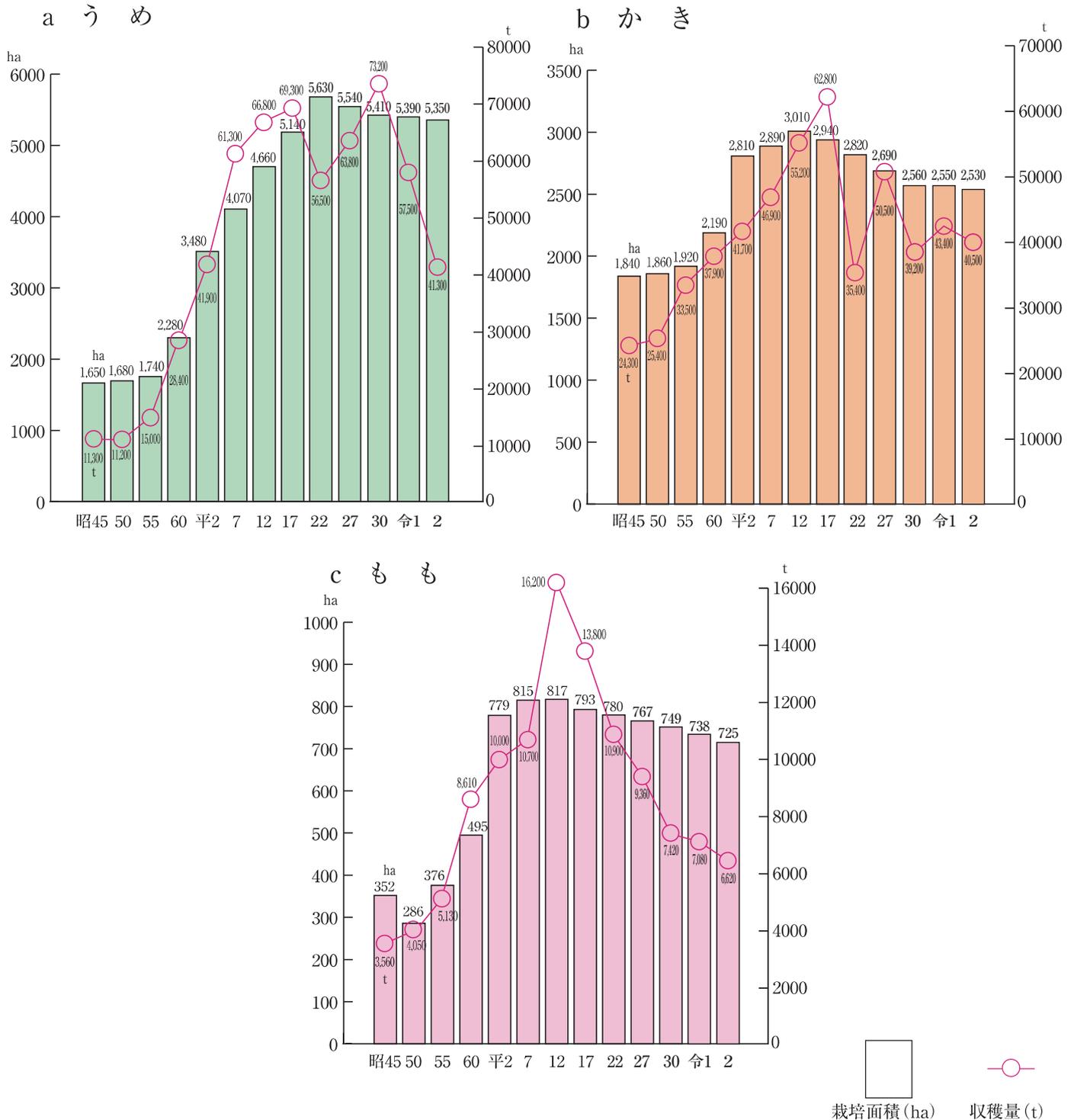
(市町村別統計検討協議会調べ)

みかんの栽培面積						
〔令2〕	全国	和歌山県		1位	2位	3位
	実数	実数	順位	シェア(%)	県名	県名
みかん	39,800	7,330	1	18.4	和歌山	愛媛 静岡

落葉果樹の栽培面積及び収穫量の推移

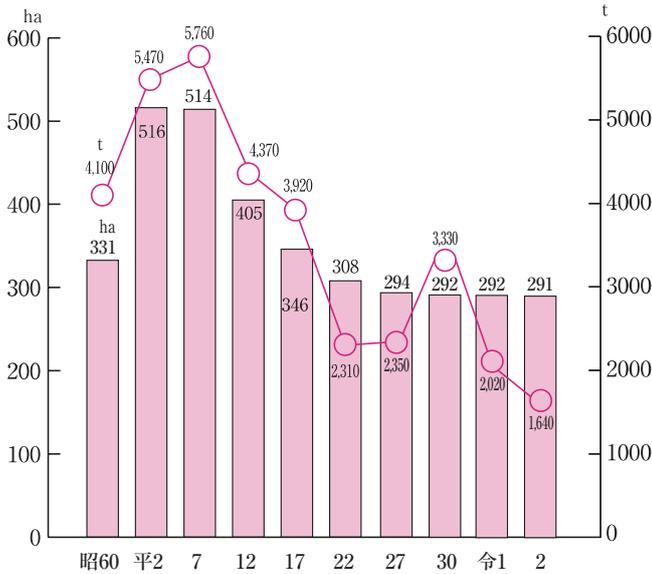
落葉果樹全体では、昭和55年以降みかんからの転作により栽培面積は増加傾向であったが、近年は減少傾向にある。

- うめ 健康食ブームと相まって栽培面積が急増したが、平成20年をピークに近年は減少傾向にある。
- かき 昭和55年から平成2年にかけて栽培面積が急増し、平成12年をピークに近年は減少傾向にある。
- もも 昭和55年から平成2年にかけて栽培面積が急増し、平成10年をピークに近年は減少傾向にある。
- すもも・キウイフルーツ 平成2年をピークに栽培面積は減少したが、近年は横ばいとなっている。

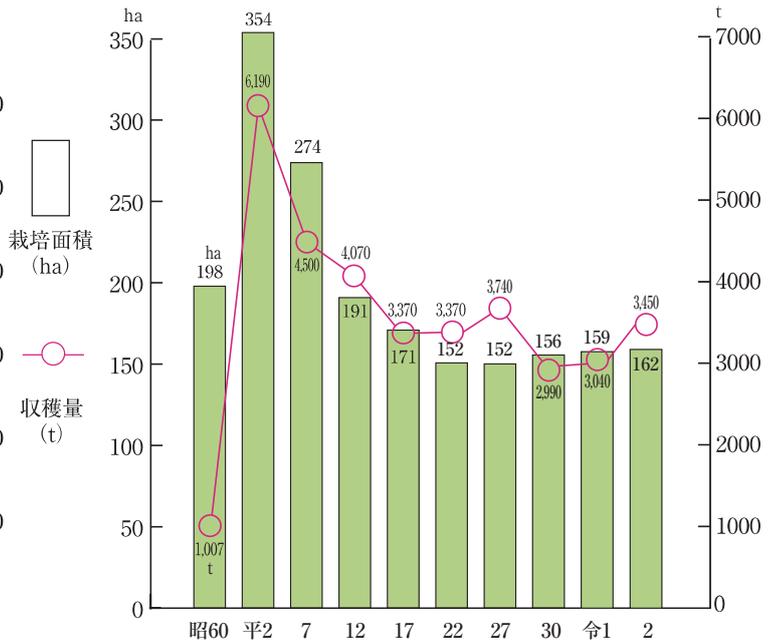


(農林水産統計年報)

d すもも

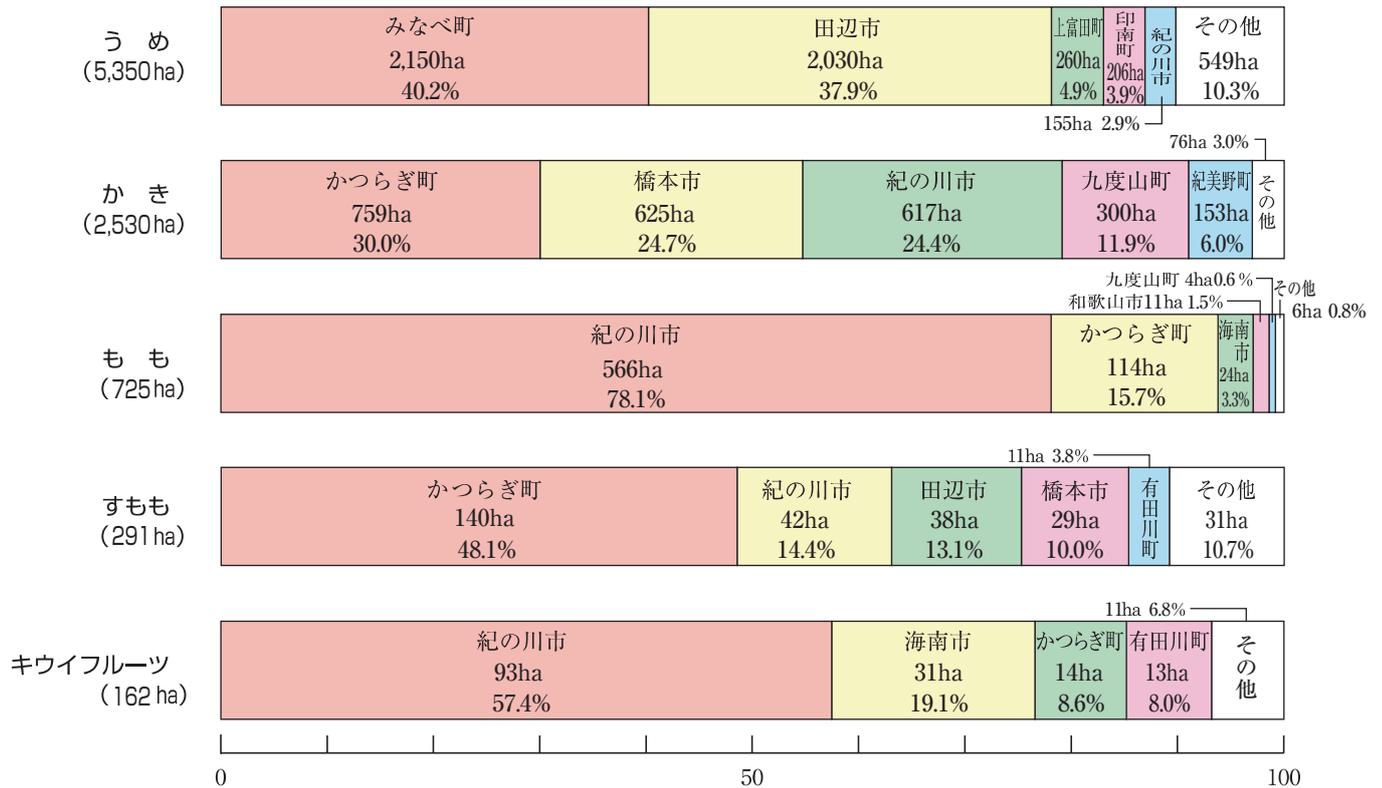


e キウイフルーツ



(農林水産統計年報)

市町村別・落葉果樹の栽培面積 (令2)



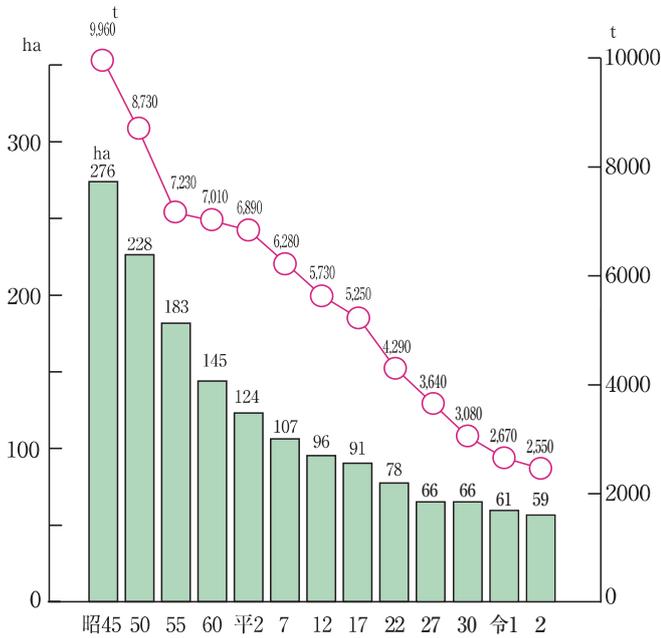
(市町村別統計検討協議会調べ)

栽培面積 (落葉果樹)		(ha)					
〔令2〕	全国	和歌山県		1位	2位	3位	
	実数	実数	順位	シェア(%)	県名	県名	県名
うめ	14,800	5,350	1	36.1	和歌山	群馬	福井
かき	19,000	2,530	1	13.3	和歌山	奈良	岐阜
もも	10,100	725	4	7.2	山梨	福島	長野
すもも	2,880	291	3	10.1	山梨	長野	和歌山
キウイフルーツ	2,050	162	3	7.9	愛媛	福岡	和歌山

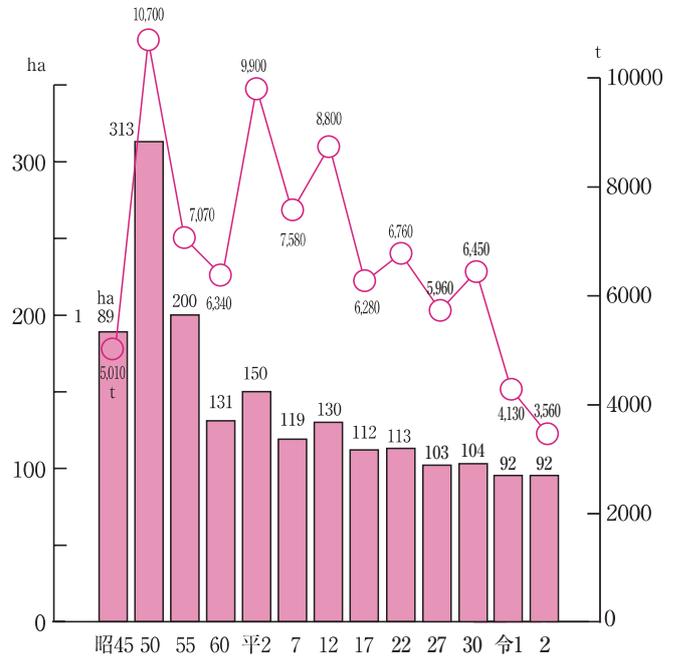
果菜類の作付面積及び収穫量の推移

栽培面積は減少傾向であったが、近年は横ばいで推移している。

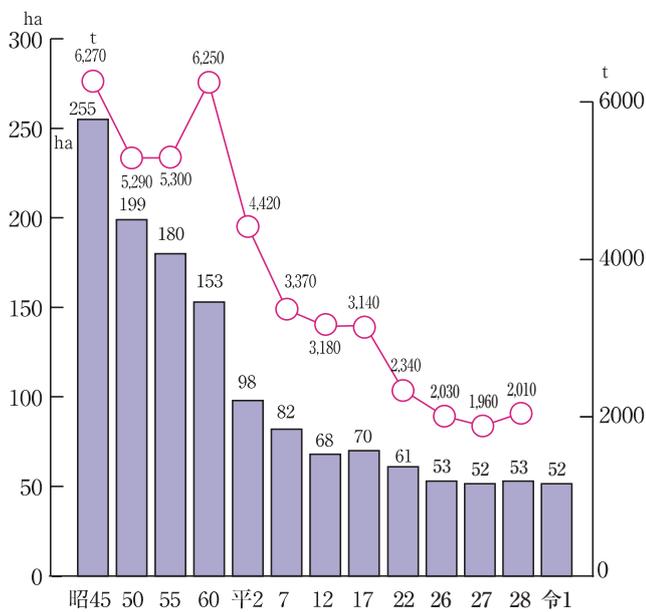
a きゅうり



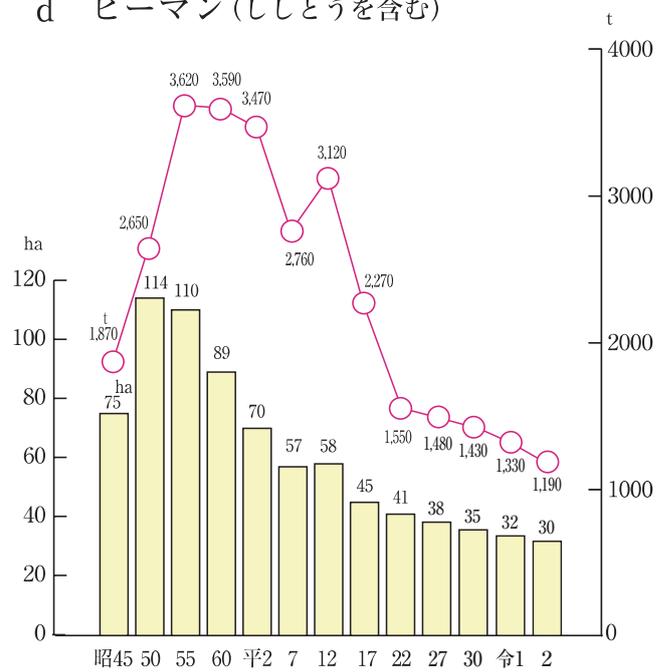
b トマト (ミニトマトを含む)



c なす



d ピーマン (ししとうを含む)

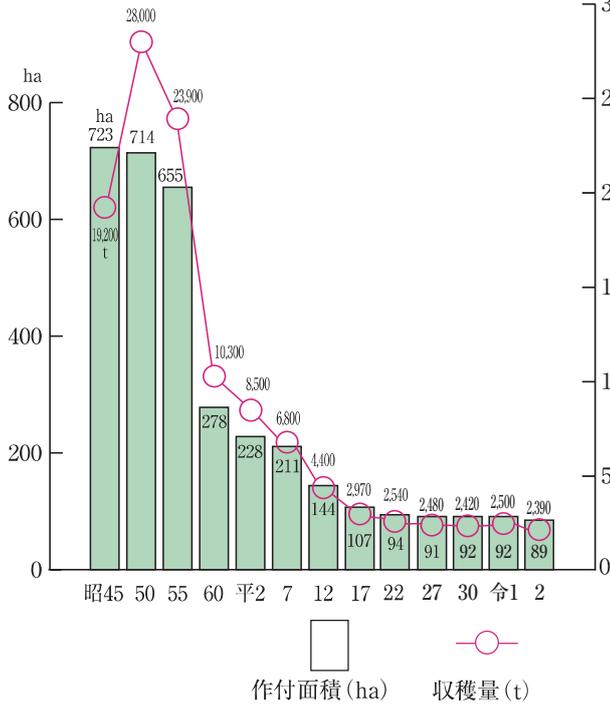


※平29・30・令2の数値はない
 ※令1の収穫量の数値はない

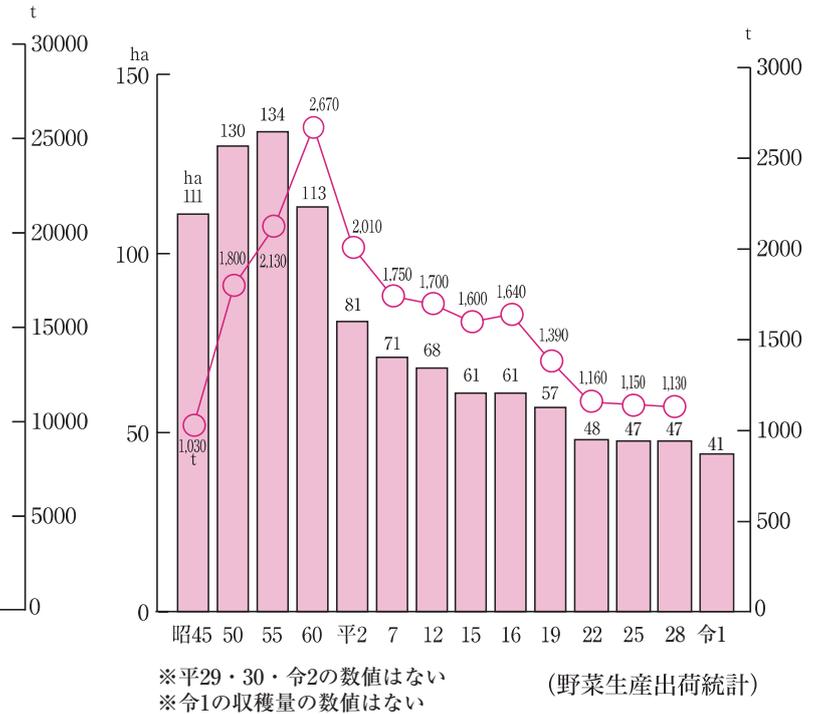
作付面積 (ha) 収穫量 (t)

(野菜生産出荷統計)

e すいか

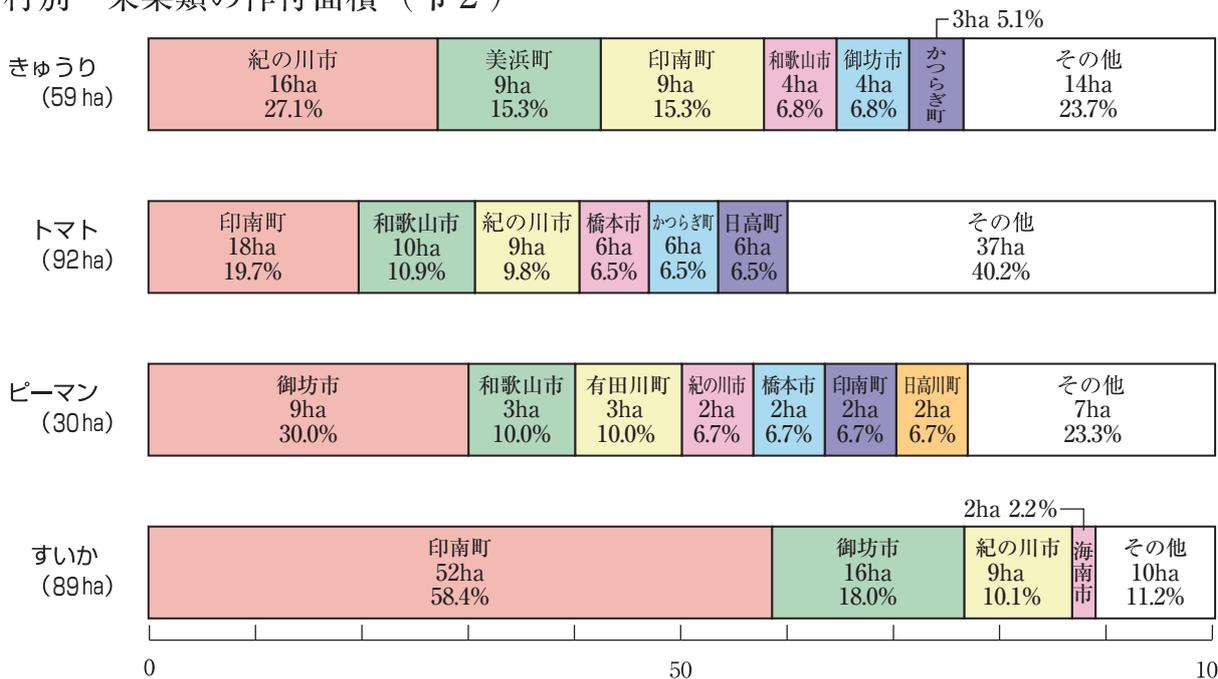


f いちご



※平29・30・令2の数値はない (野菜生産出荷統計)
 ※令1の収穫量の数値はない

市町村別・果菜類の作付面積（令2）



※ピーマンはししとう含む

(市町村別統計検討協議会調べ)

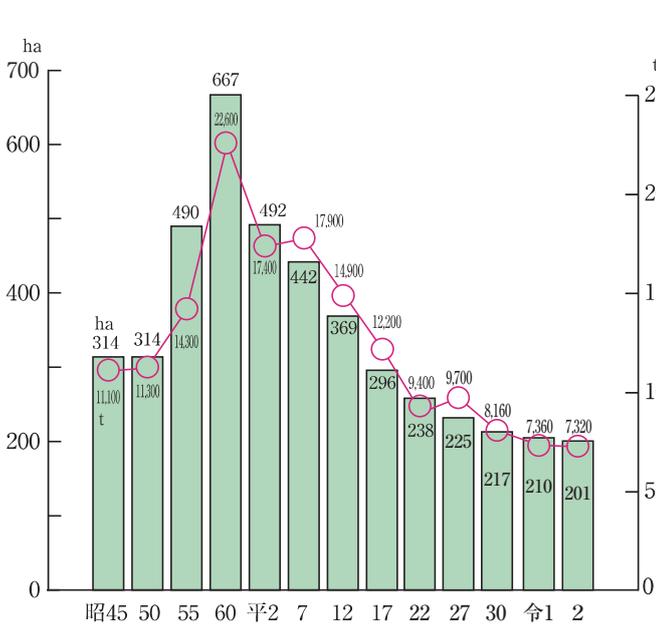
作付面積（果菜類） (ha)							
〔令2〕	全国		和歌山県		1位	2位	3位
	実数	順位	実数	シェア(%)	県名	県名	県名
きゅうり	10,100	59	41	0.6	群馬	福島	宮崎
トマト	11,400	92	37	0.8	熊本	茨城	北海道
ピーマン	3,160	30	27	1.0	茨城	宮崎	岩手
すいか	9,350	89	21	1.0	熊本	千葉	山形

※県順位は、公表されている統計数値から作成した。

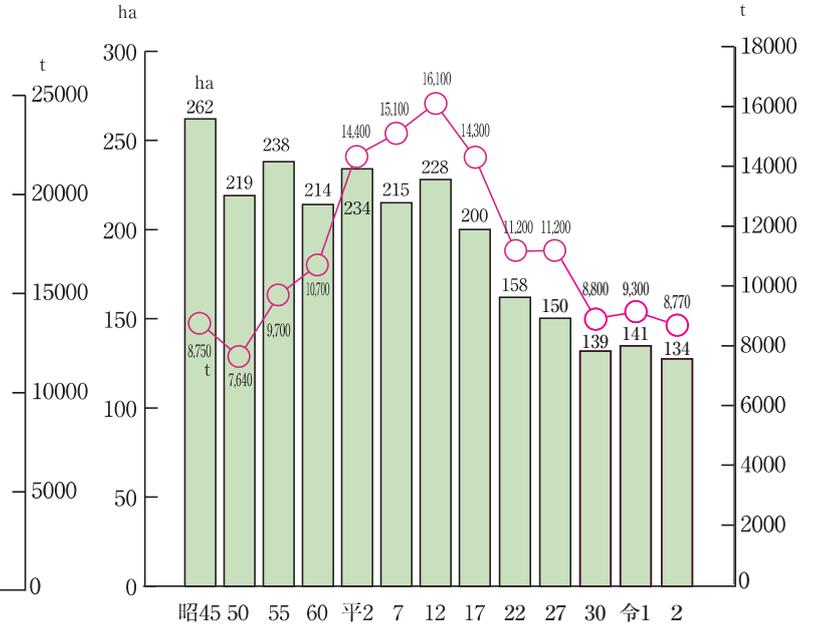
葉茎菜類の作付面積及び収穫量の推移

栽培面積は減少傾向であったが、近年は横ばいで推移している。

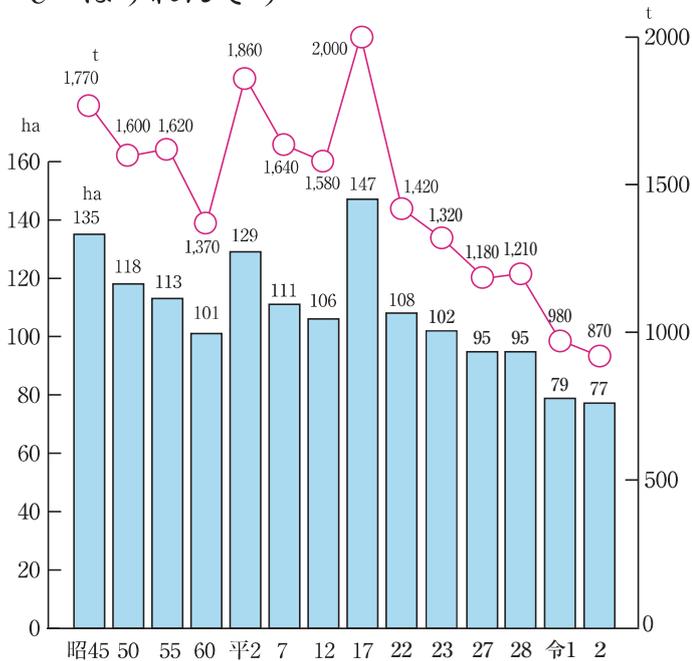
a キャベツ



b はくさい

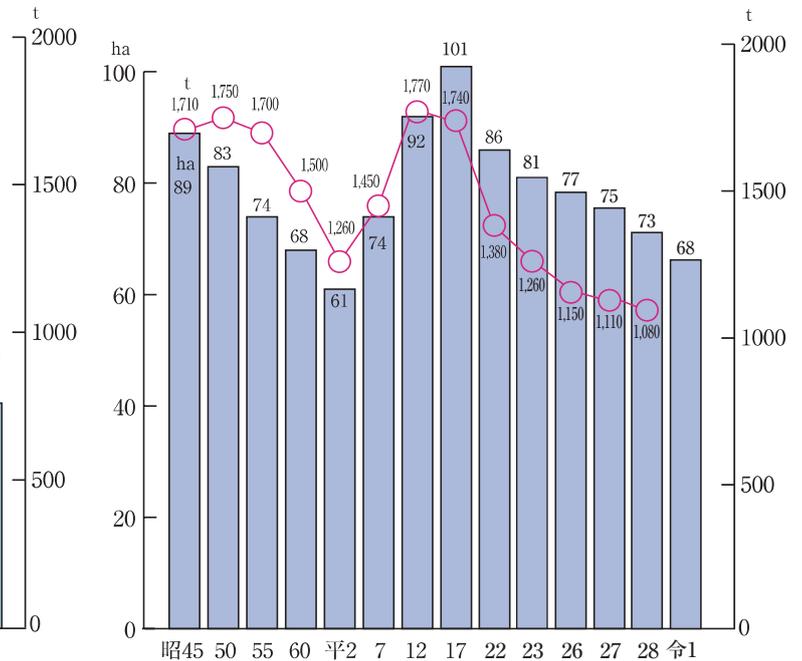


c ほうれんそう



※平29・30の数値はない

d ねぎ



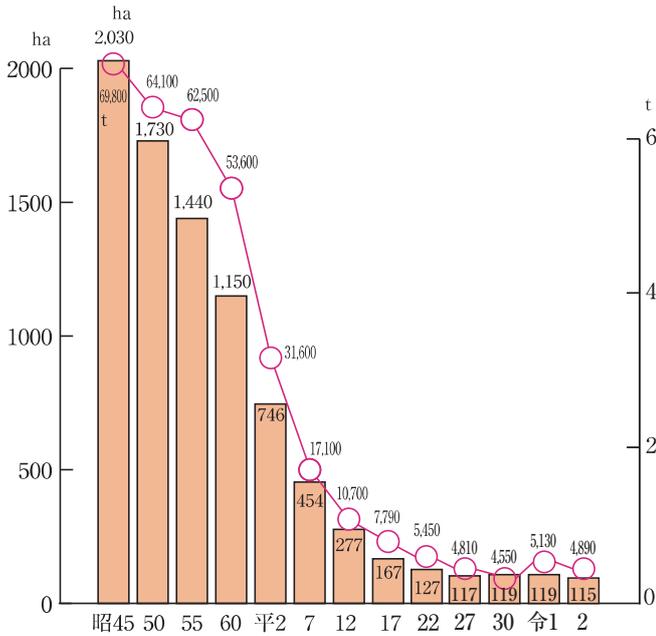
※平29・30・令2の数値はない
※令1の収穫量の数値はない

□ 作付面積 (ha)

○ 収穫量 (t)

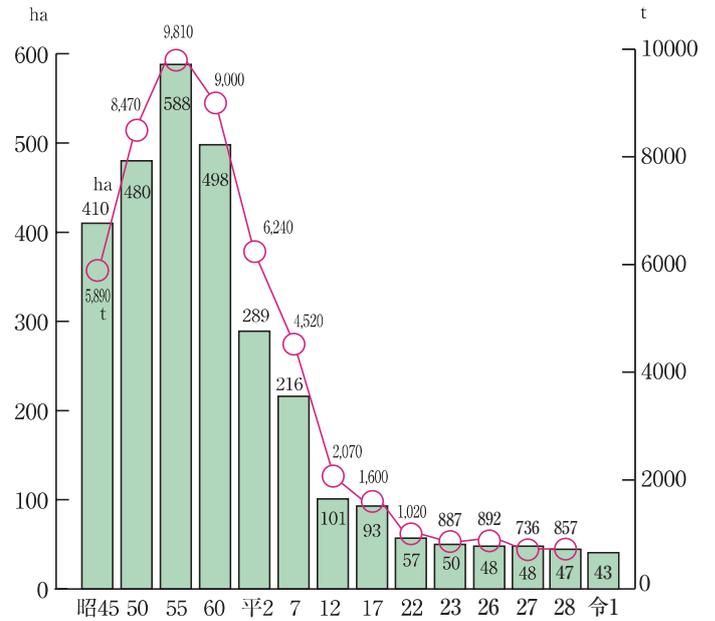
(野菜生産出荷統計)

e たまねぎ



□ 作付面積 (ha) ○ 収穫量 (t)

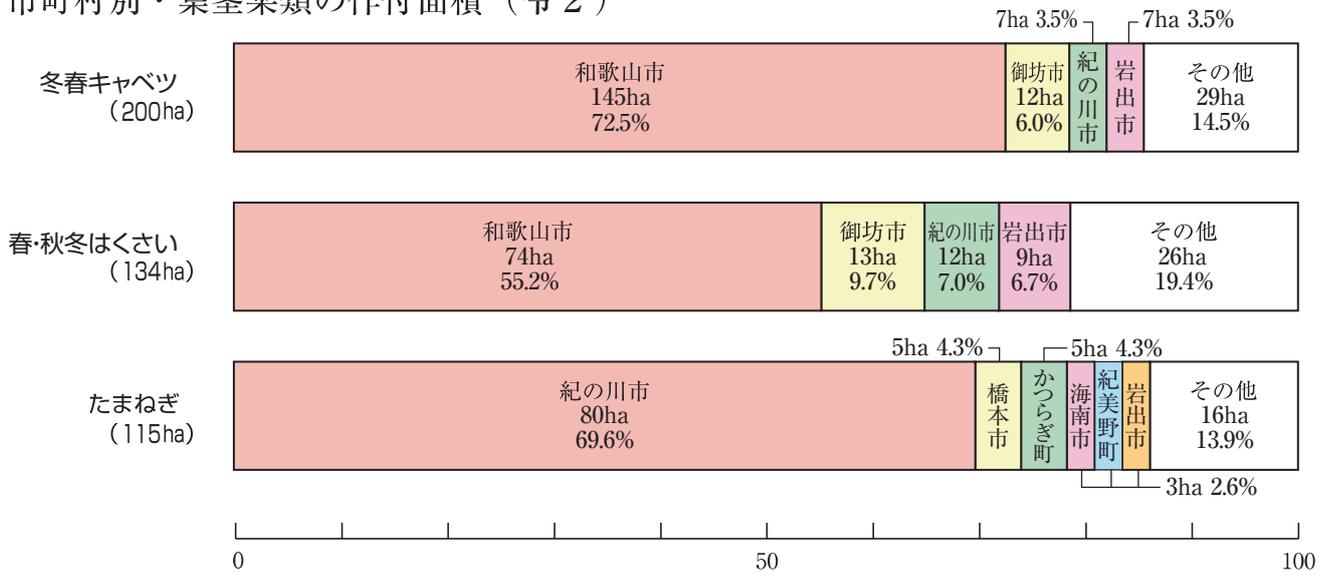
f レタス



※平29・30・令2の数値はない
※令1の収穫量の数値はない

(野菜生産出荷統計)

市町村別・葉茎菜類の作付面積 (令2)



(市町村別統計検討協議会調べ)

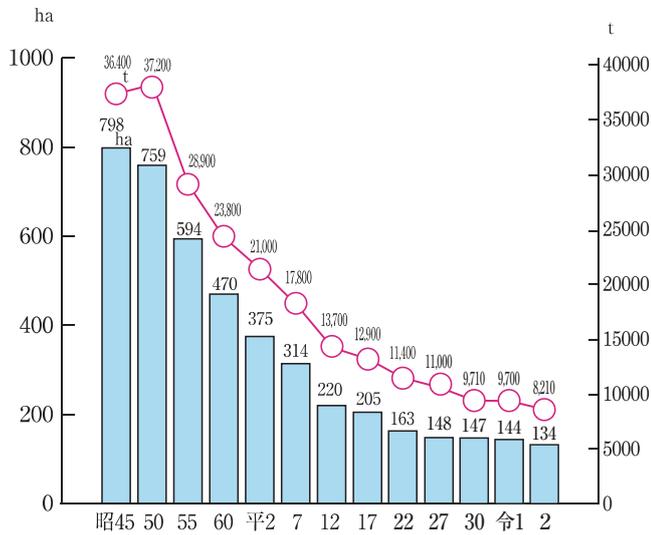
作付面積 (葉茎菜類) (ha)							
〔令2〕	全国	和歌山県			1位	2位	3位
	実数	実数	順位	シェア(%)	県名	県名	県名
キャベツ	34,000	201	34	0.6	愛知	群馬	千葉
はくさい	16,600	134	28	0.8	茨城	長野	北海道
たまねぎ	25,500	115	22	0.5	北海道	佐賀	兵庫

※県順位は、公表されている統計数値から作成した。

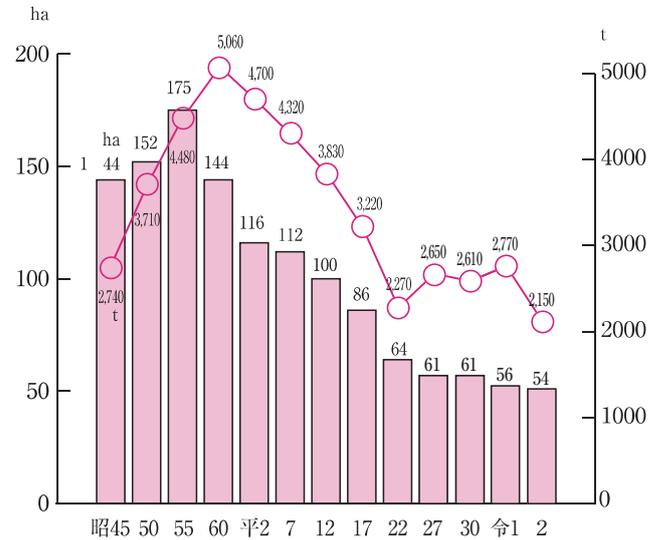
根菜類及び豆類の作付面積と収穫量の推移

栽培面積は減少傾向であったが、近年は横ばいで推移している。

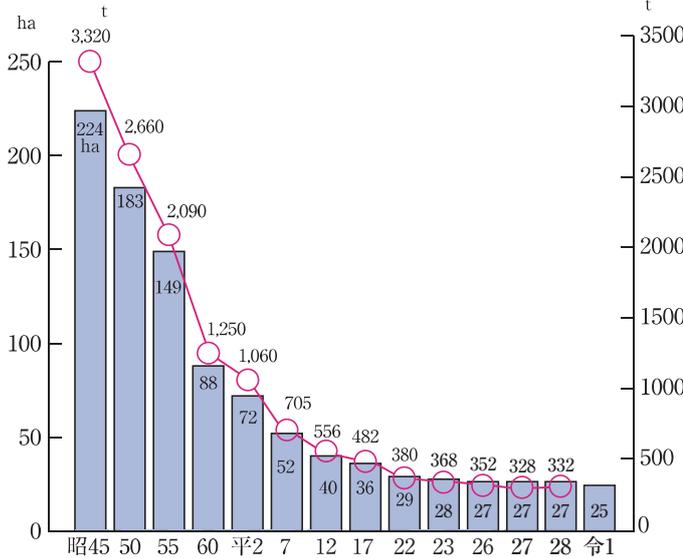
a だいこん



b にんじん

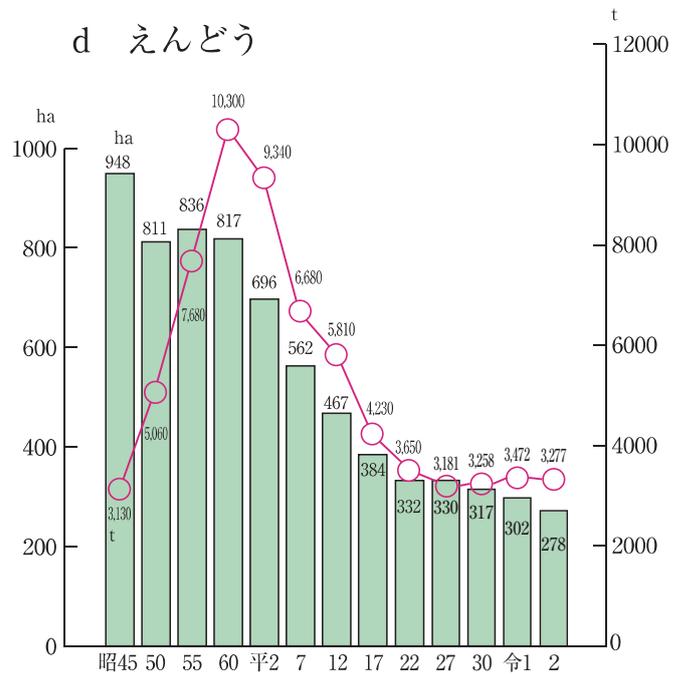


c さといも



※平29・30・令2の数値はない
 ※令1の収穫量の数値はない

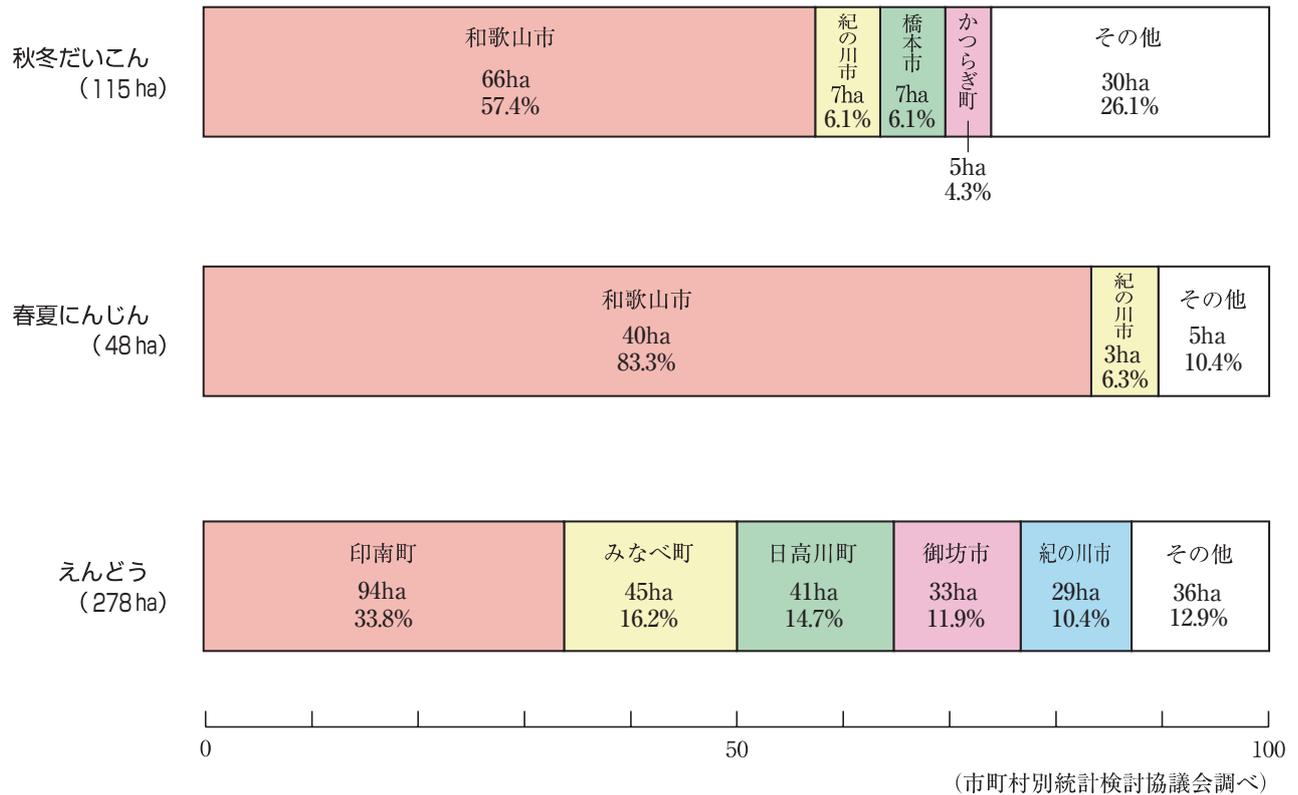
d えんどう



□ 作付面積 (ha) ○ 収穫量 (t)

(野菜生産出荷統計)

市町村別・根菜類及び豆類の作付面積（令2）

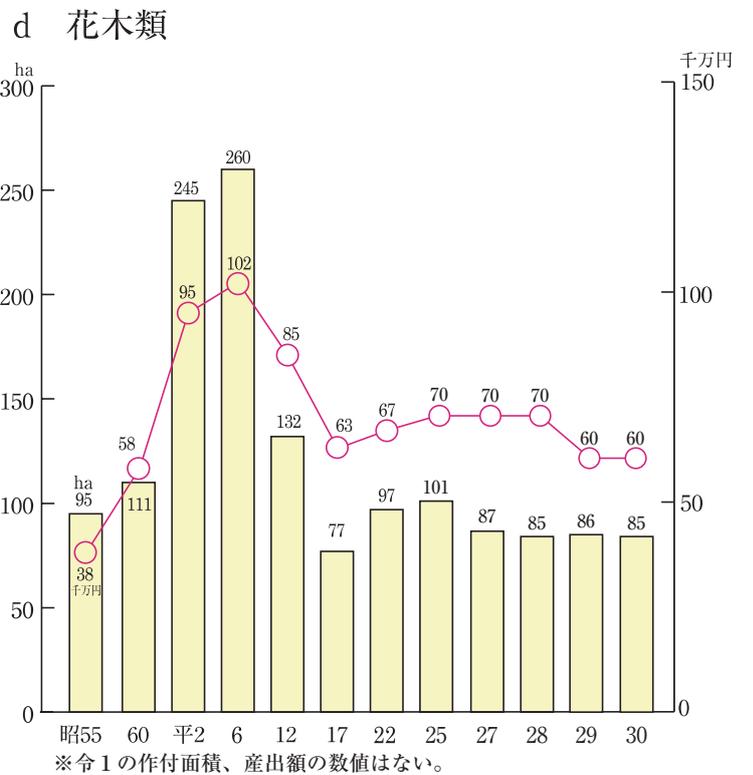
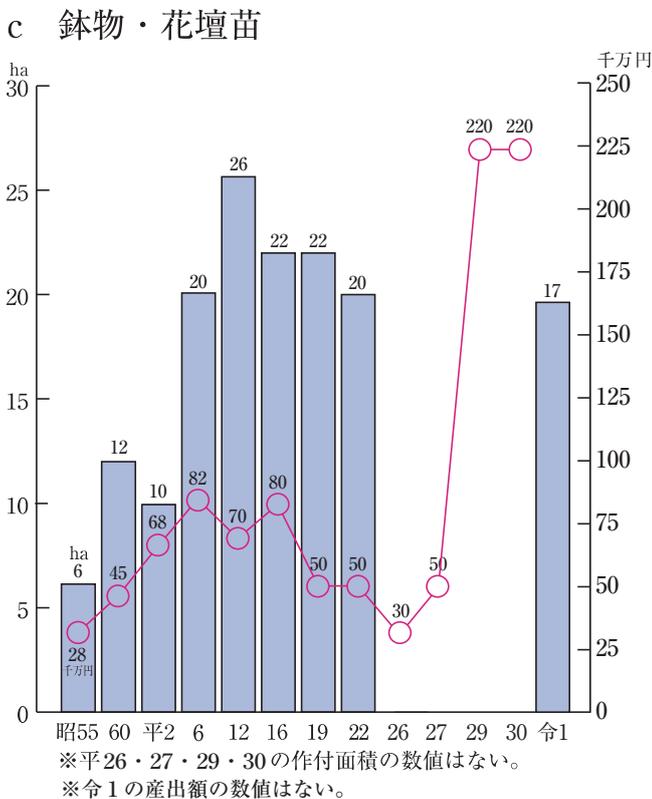
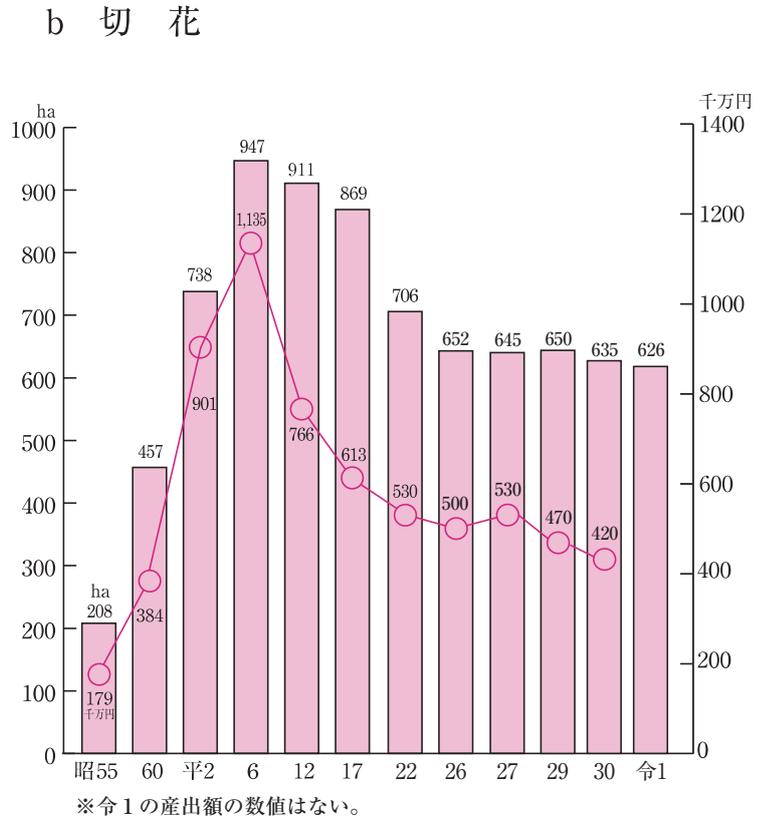
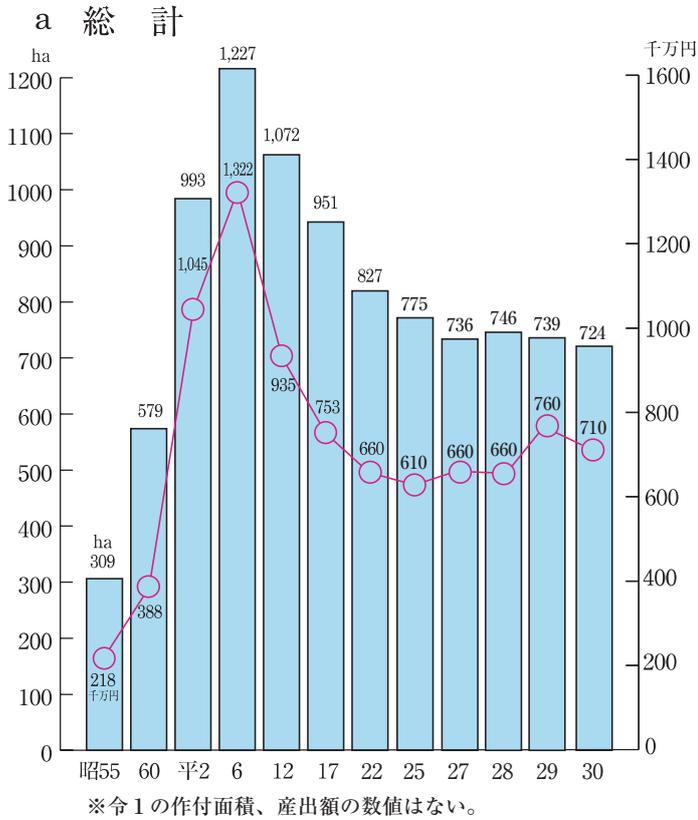


作付面積（根菜類・豆類）							
〔令2〕	全国	和歌山県			1位	2位	3位
	実数	実数	順位	シェア(%)	県名	県名	県名
だいこん	29,800	134	35	0.4	北海道	青森	千葉
にんじん	16,800	54	25	0.3	北海道	千葉	青森
えんどう	3,485	278	2	8.0	鹿児島	和歌山	福島

※県順位は、公表されている統計数値から作成した。(野菜生産出荷統計)
 ※えんどうはうすいえんどう、きぬさやえんどう、オランダの合計。

花き生産の推移

花き全体の栽培面積は平成6年から平成2年にかけて需要の増加や野菜からの転換により急激に増加し、平成6年にピークとなった。その後減少に転じ、近年は横ばいとなっている。

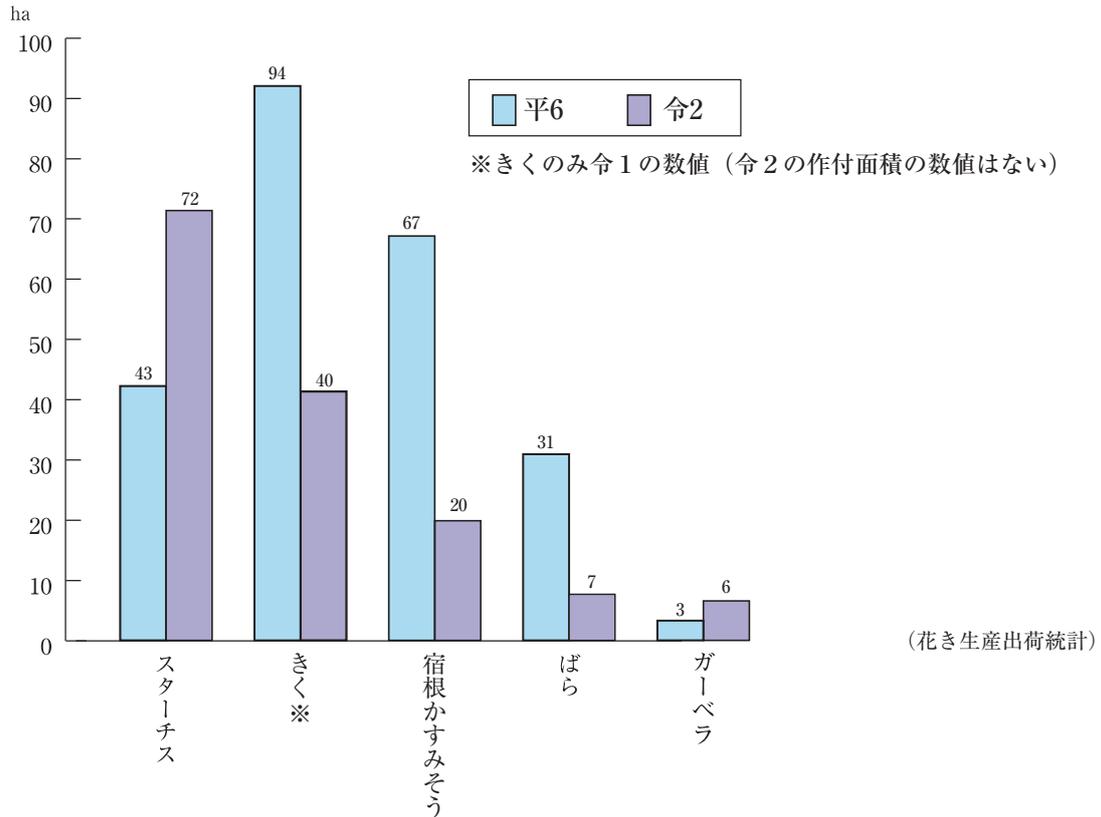


□ 作付面積 (ha)
○ 産出額 (千万円)

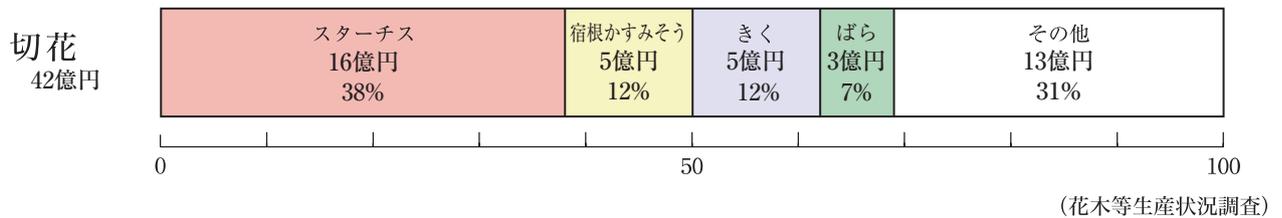
※ただし、金額のうち、a総計の一部（花木類、地被植物類）及びd花木類については出荷額
産出額：品目別生産量×品目別農家庭先販売価格
出荷額：出荷された農作物の金額

(花木等生産状況調査)

主要切花の作付面積



切花生産額の品目別割合（平30）



産出額(花き)							(億円)
〔平30〕	全国	和歌山県		1位	2位	3位	
	実数	実数	順位	シェア(%)	県名	県名	県名
スターチス	50	16	2	32.0	北海道	和歌山	長野

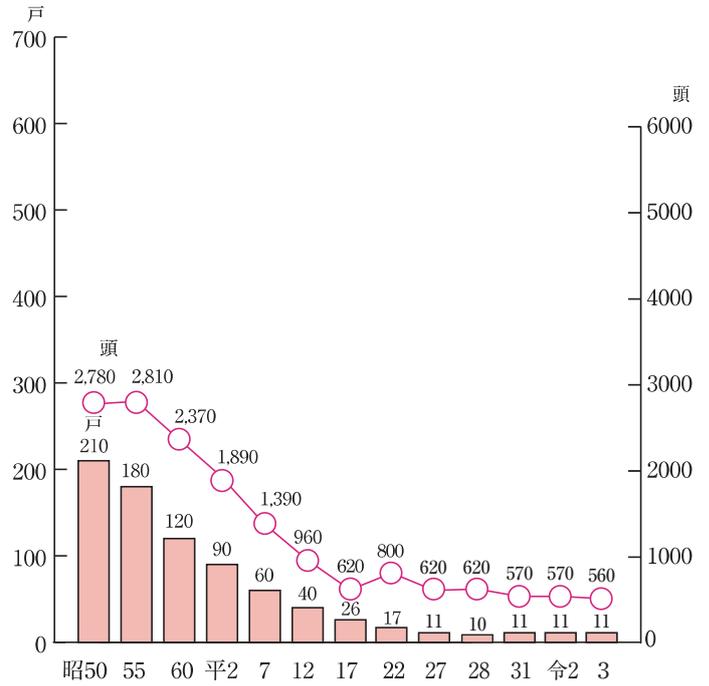
(花木等生産状況調査)

家畜の飼養戸数及び飼養頭羽数の推移

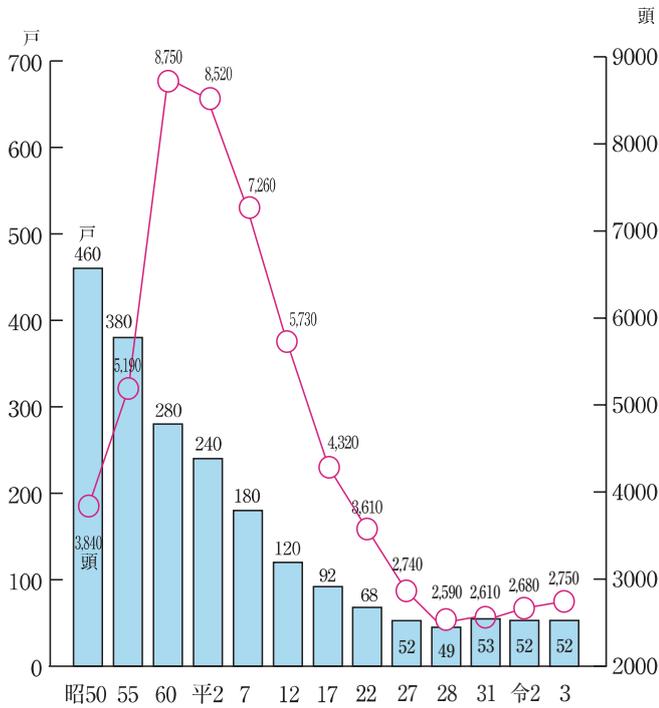
畜産農家数及び飼養頭羽数は減少傾向であるが近年は横ばいで推移している。

(採卵鶏の農家戸数は平成元年より300羽以上のみ、平成9年より1,000羽以上のみ、平成14年より種鶏農家除く。)

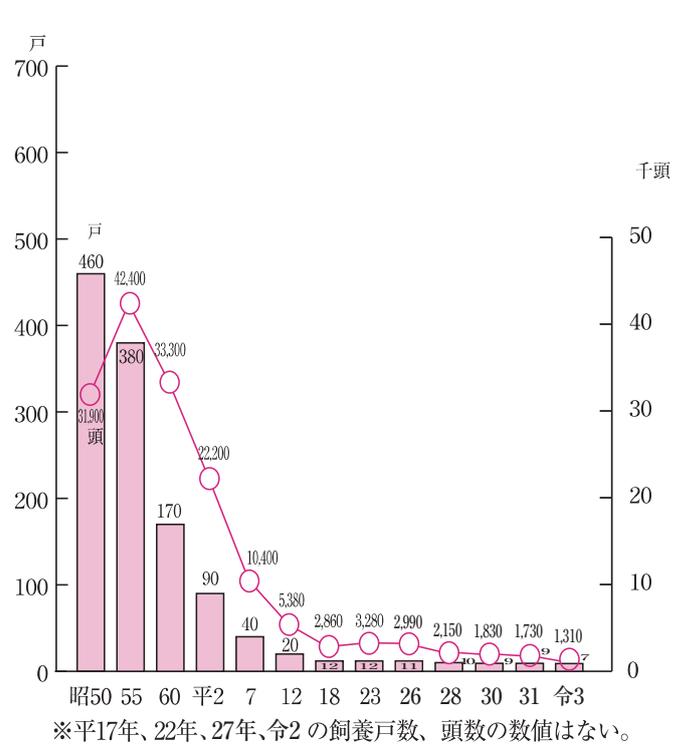
a 乳用牛



b 肉用牛

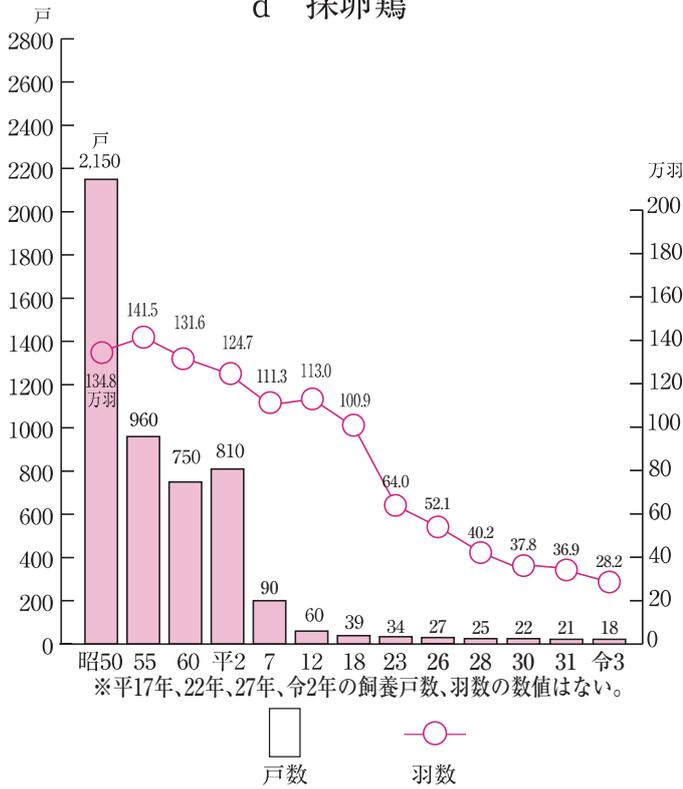


c 豚

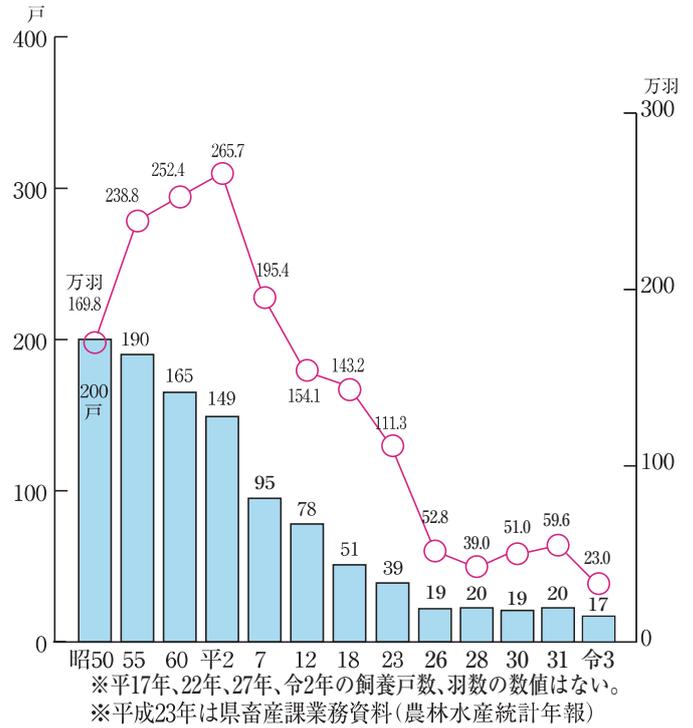


戸数
 頭数
 (農林水産省「畜産統計調査」)

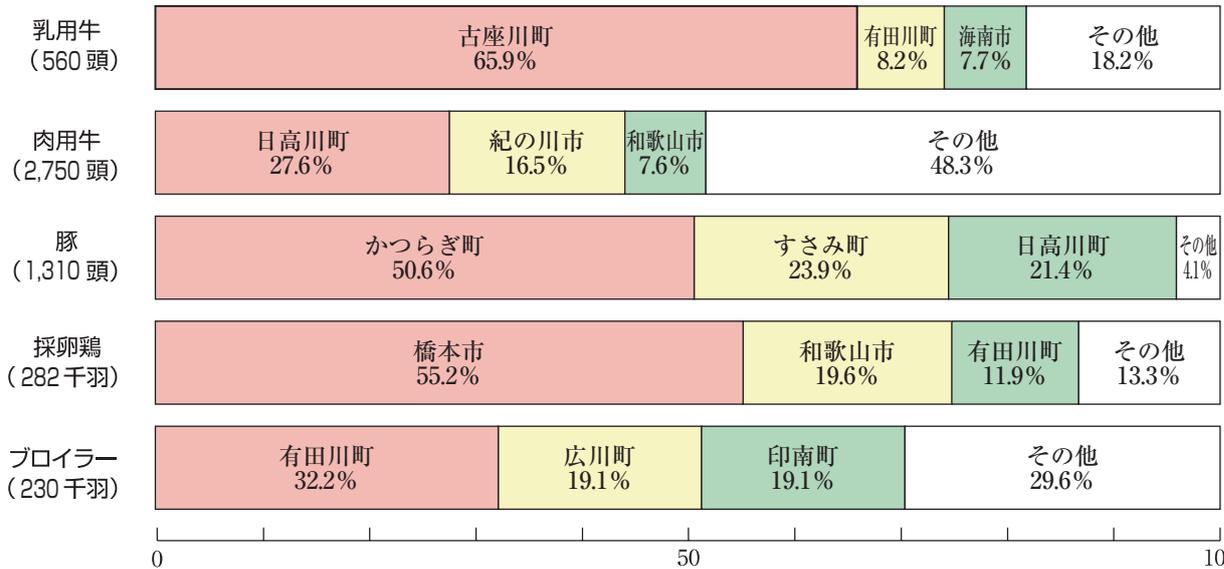
d 採卵鶏



e ブロイラー



市町村別・家畜飼養頭羽数 (令3 : 乳用牛、肉用牛、豚、採卵鶏、ブロイラー)



家畜の飼養頭羽数・戸数

		和歌山県				1位	2位	3位
		全国 実数	実数	順位	シェア(%)	県名	県名	県名
飼養頭羽数	乳用牛(頭)	1,356,000	560	47	0.0	北海道	岩手	栃木
	肉用牛(頭)	2,605,000	2,750	44	0.1	鹿児島	宮崎	岩手
	豚(頭)	9,290,000	1,310	47	0.0	鹿児島	宮崎	北海道
	採卵鶏(千羽)	183,373	282	42	0.2	茨城	鹿児島	千葉
飼養戸数(戸)	ブロイラー(千羽)	139,658	230	-	0.2	宮崎	鹿児島	岩手
	乳用牛	13,800	11	47	0.1	北海道	岩手	栃木
	肉用牛	42,100	52	42	0.1	鹿児島	宮崎	岩手
	豚	3,850	7	43	0.2	鹿児島	宮崎	茨城
	採卵鶏	1,960	18	36	0.9	愛知	鹿児島	千葉
ブロイラー	2,160	17	23	0.8	宮崎	鹿児島	岩手	

ブロイラーの飼養頭羽数の和歌山県の順位は、飼養頭羽数の数値がXとなっている県があるため確定できない。

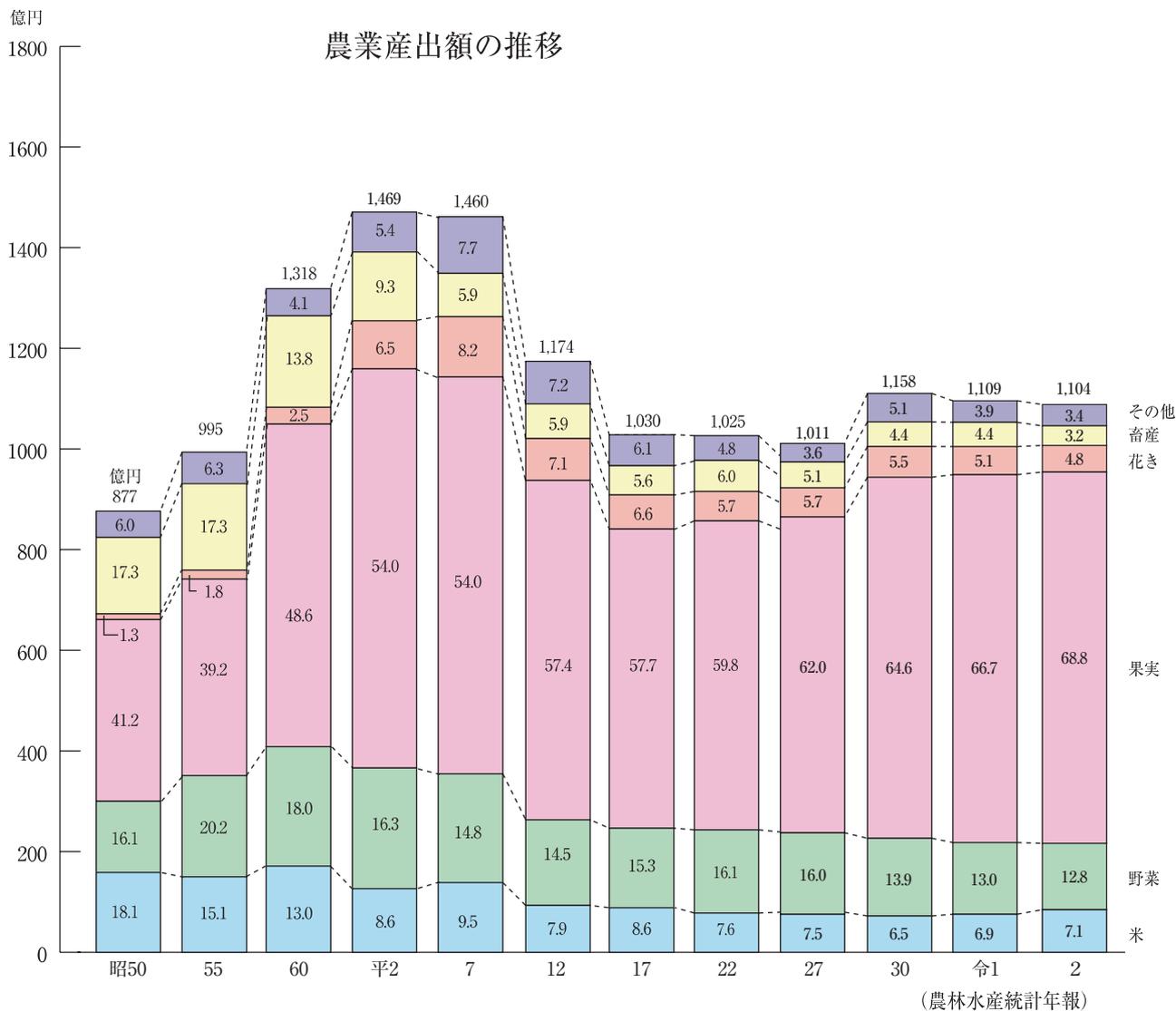
X:個人又は法人その他の団体に関する秘密を保護するため、統計数値を公表しないもの

(農林水産省「畜産統計調査」)
乳用牛、肉用牛豚、採卵鶏、ブロイラー [令3.3.1現在]

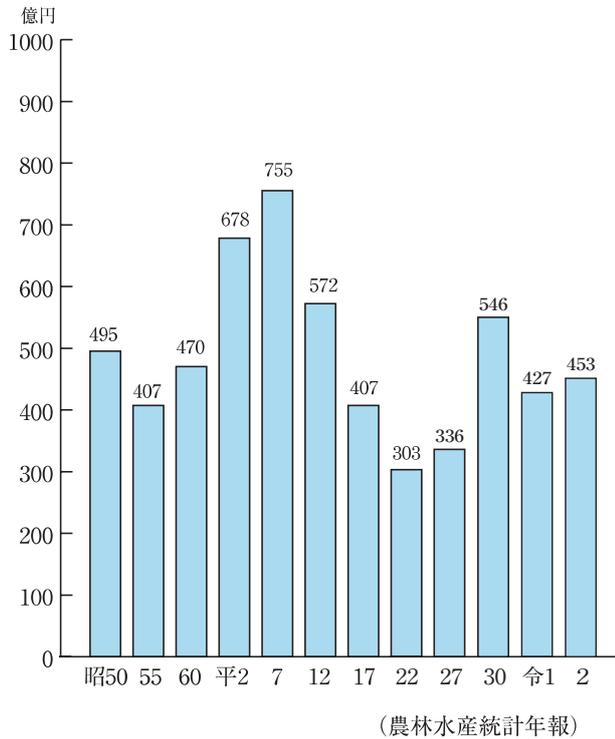
5) 農業所得と農業産出額

農業産出額はピークの平成3年で1,737億円となり、昭和45年に比べ3.0倍となっている。しかし、平成11年以降ピーク時の60~70%程度の産出額で推移している。

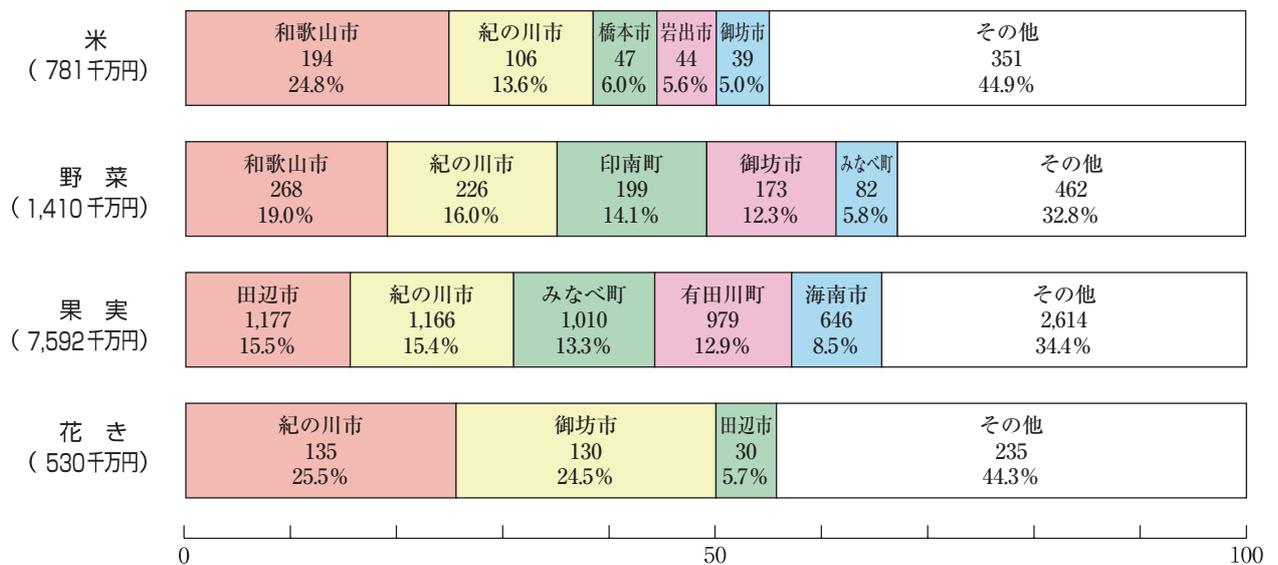
また、生産農業所得も同様の傾向で令和2年は453億円となり、平成8年をピークに減少傾向にある。



生産農業所得（県計）の推移



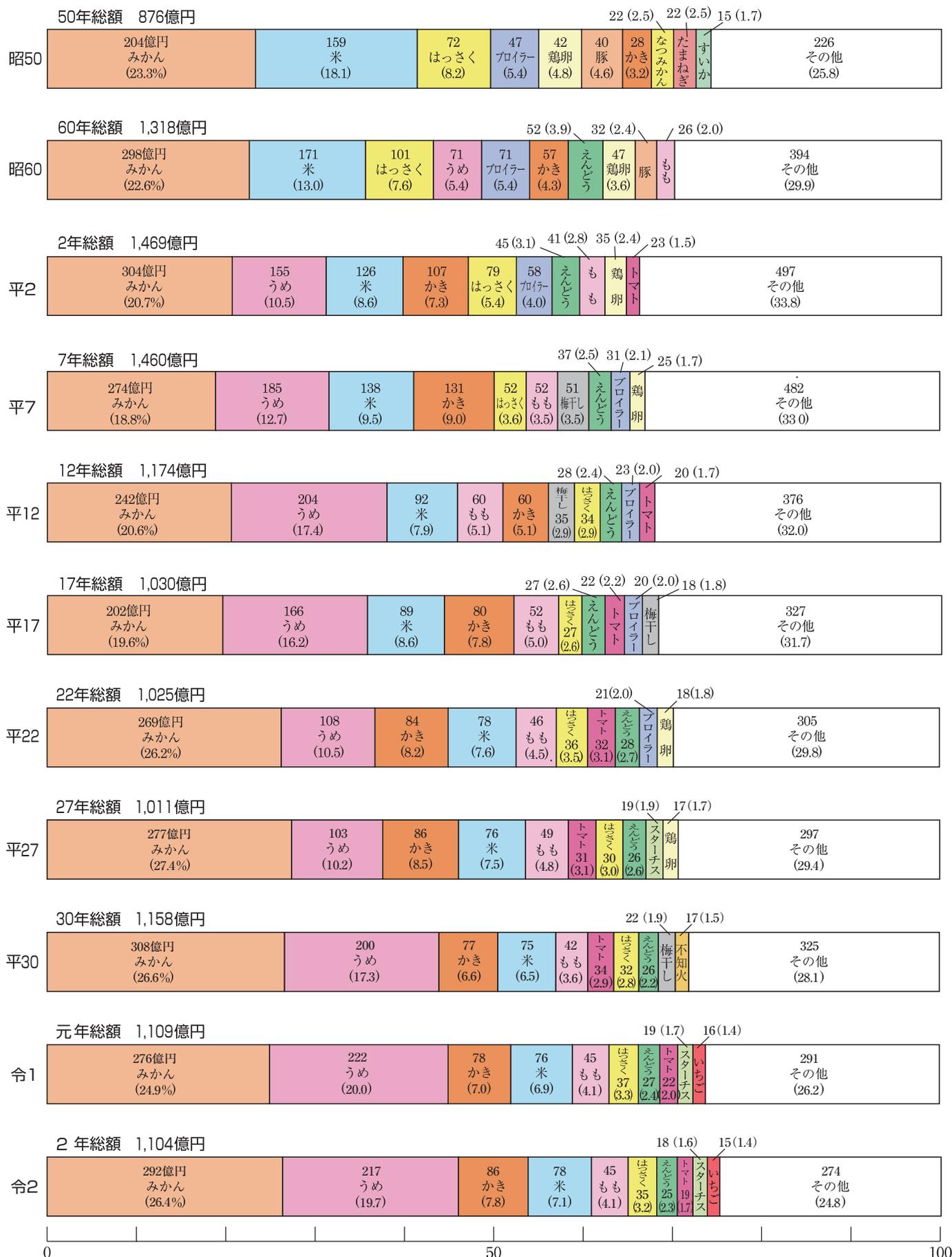
市町村別・部門別農業産出額（令2）



(農林水産統計年報)

農産物産出額上位10品目の推移

令和2年の農産物産出額を品目別にみると、「みかん」と「うめ」で全体の約46%を占めており、1位みかん、2位うめ、3位かき、4位米、5位ももとなっている。



6) 農業農村整備事業の基盤整備状況

農業農村整備事業における基盤の整備状況は、畑の農道整備56.8%、かんがい施設整備34.2%、区画整理6.9%で田の区画整理は17.2%となっている。整備済みの農業水利施設については、本格的な保全対策を進めています。

1 畑（果樹園・普通畑）の整備状況

項目	年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
畑面積 (ha)		25,100	24,800	24,600	24,500	24,400	24,300	24,200	23,900	23,600	23,200	22,900	22,700	22,500
農道整備済み面積 (ha)		12,204	12,253	12,344	12,348	12,359	12,458	12,496	12,695	12,720	12,776	12,777	12,777	12,777
整備率 (%)		48.6	49.4	50.2	50.4	50.7	51.3	51.6	53.1	53.9	55.1	55.8	56.3	56.8
畑地かんがい施設整備済み面積 (ha)		7,501	7,501	7,501	7,501	7,501	7,552	7,662	7,676	7,710	7,710	7,710	7,710	7,710
整備率 (%)		29.9	30.2	30.5	30.6	30.7	31.1	31.7	32.1	32.7	33.2	33.7	34.0	34.2
区画整理済み面積 (ha)		1,520	1,520	1,525	1,525	1,539	1,551	1,551	1,562	1,562	1,562	1,562	1,565	1,565
整備率 (%)		6.1	6.1	6.2	6.2	6.3	6.4	6.4	6.5	6.6	6.7	6.8	6.9	6.9

- ・農道整備済みとは、末端農道が整備された畑
- ・畑地かんがい施設整備済みとは、スプリンクラー等の施設が整備されている畑、及び、水源が確保され必要に応じて散水が可能な畑
- ・区画整理には、農地造成を含む

2 田の整備状況

項目	年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
田面積 (ha)		10,900	10,700	10,600	10,500	10,300	10,300	10,100	9,870	9,740	9,610	9,520	9,460	9,330
区画整理済み面積 (ha)		1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,601	1,601	1,601	1,601	1,601	1,601	1,601	1,607
整備率 (%)		14.6	14.8	14.8	15.1	15.4	15.5	15.9	16.2	16.4	16.7	16.8	16.9	17.2

- ・区画整理には、30a未満の小区画を含む。

3 土地改良施設の整備状況

項目	年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
農業水利施設延長 (km)		682	682	682	682	682	682	682	682	682	682	682	682	682
保全対策済み延長		24	40	50	52	68	79	95	101	103	103	110	112	112
ため池の箇所数		5,566	5,566	5,566	5,453	5,453	5,453	5,453	5,453	5,260	5,260	5,260	5,131	5,130
整備済み箇所数		1,115	1,136	1,163	1,177	1,213	1,226	1,250	1,280	1,300	1,319	1,344	1,359	1,381
整備率 (%)		20.0	20.4	20.5	21.0	22.2	22.5	22.9	23.5	24.7	25.1	25.5	26.5	26.9
農業集落排水整備対象人口 (人)		61,878	45,003	45,921	45,321	44,781	44,425	44,188	42,940	42,657	41,468	38,952	38,736	37,977
整備済み人口		43,302	43,250	43,527	43,395	42,859	42,492	42,252	41,011	41,094	39,456	37,975	37,717	36,944
整備率 (%)		70.0	96.1	94.8	95.8	95.7	95.6	95.6	95.5	96.3	95.1	97.5	97.4	97.2
広域農道整備済み延長 (km)		66.9	68.3	68.9	69.8	70.4	71.5	72.1	73.1	73.6	75.2	75.4	75.8	77.3

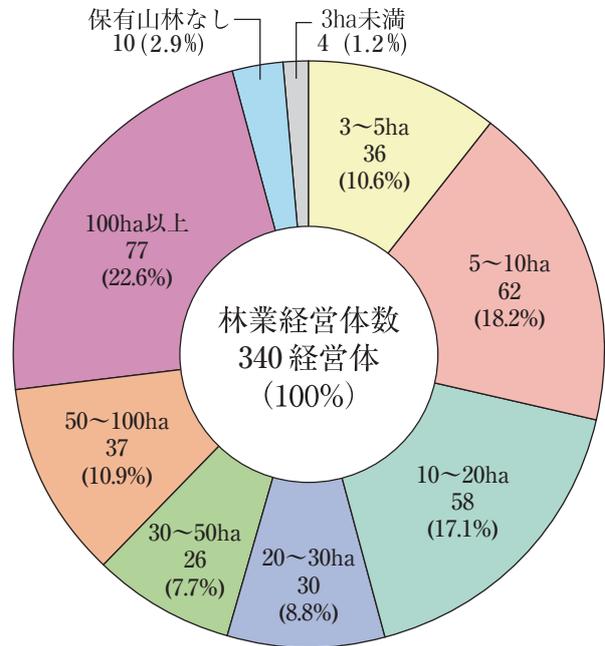
- ・農業水利施設延長は、県営事業以上で造成された幹線施設延長

2 林業部門

1) 林業を担う経営体（林業経営体）

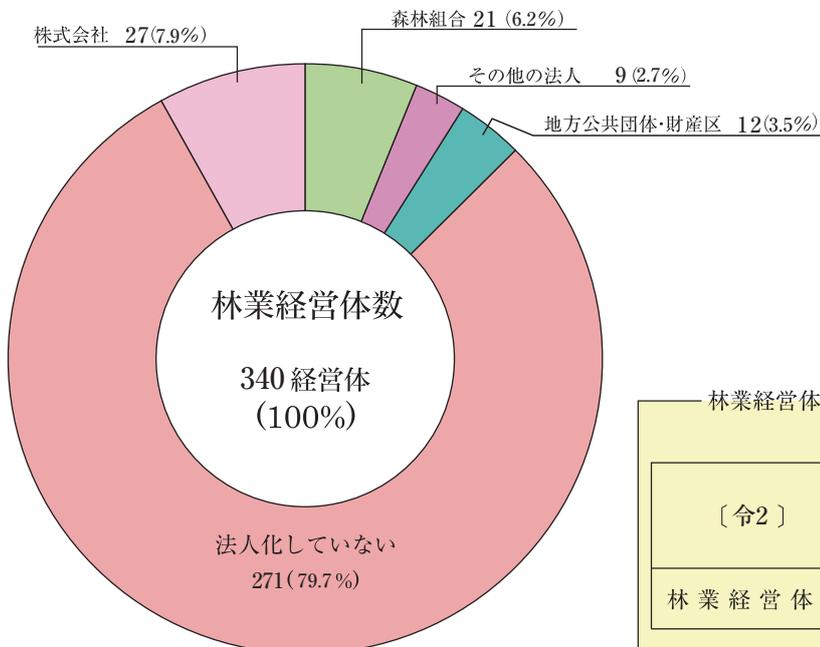
本県の林業経営体数は、340経営体となっており、保有山林規模別では、集約化が進み30ha以上の経営体が総数の41%を占め、前回調査より18ポイント高くなっている。
また、組織形態別では、法人化していない経営体が79%を占めている。

保有山林規模別林業経営体数



(2020年農林業センサス)

組織形態別経営体数



(2020年農林業センサス等)

林業経営体数

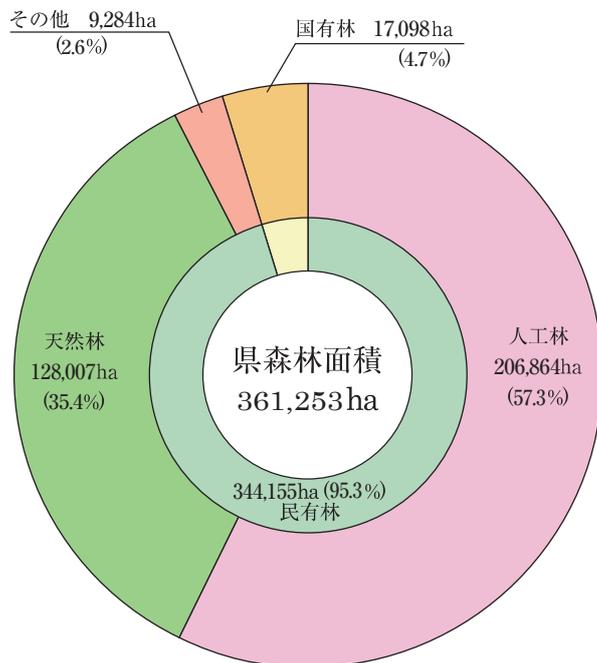
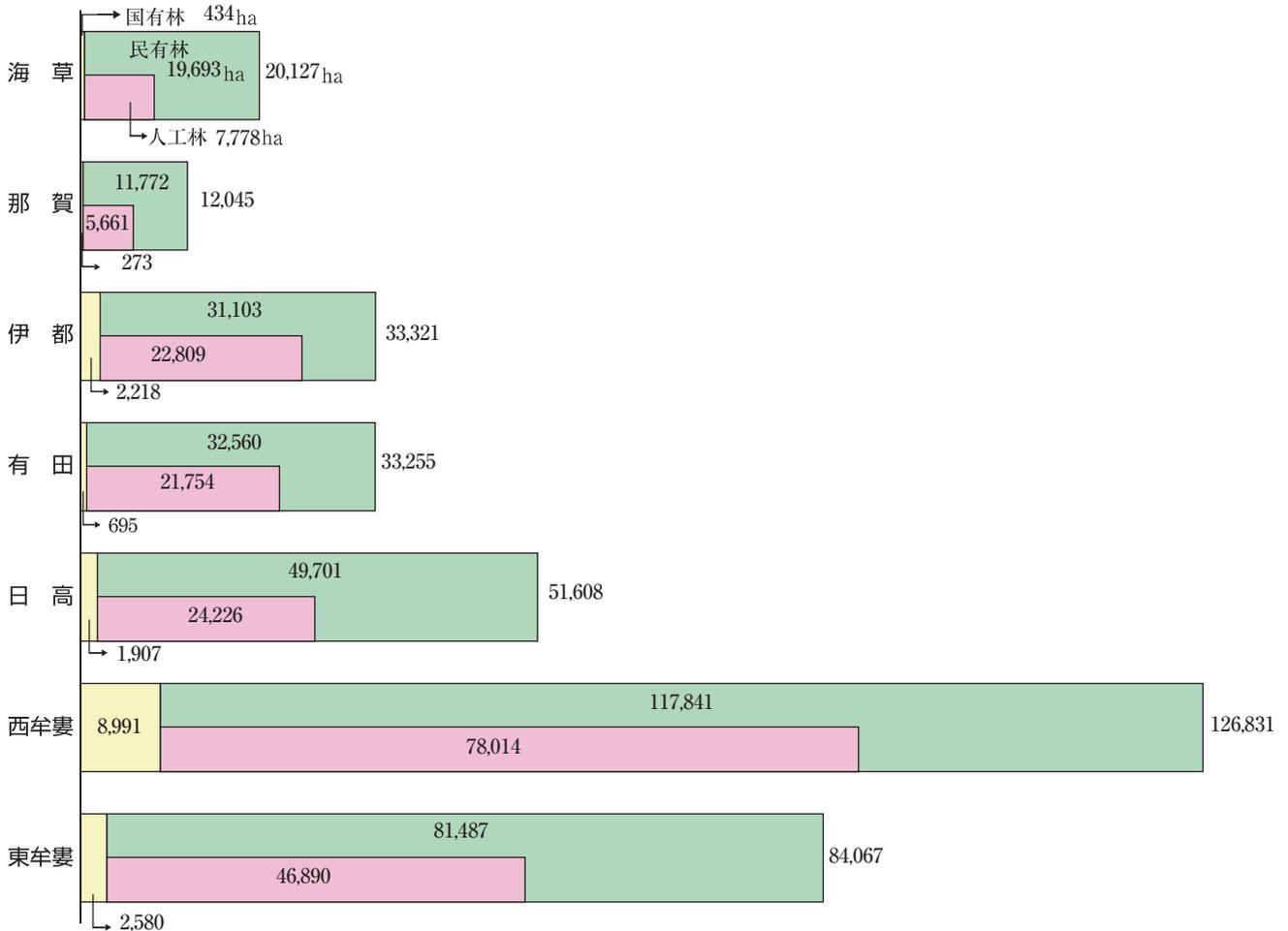
〔令2〕	全国	和歌山県		1位	2位	3位
	実数	実数	順位	シェア(%)	県名	県名
林業経営体数	34,001	340	35	1.0	北海道	宮崎 岩手

(2020年農林業センサス)

2) 森林資源・林業生産基盤

地域別・森林面積（令3.4.1現在）

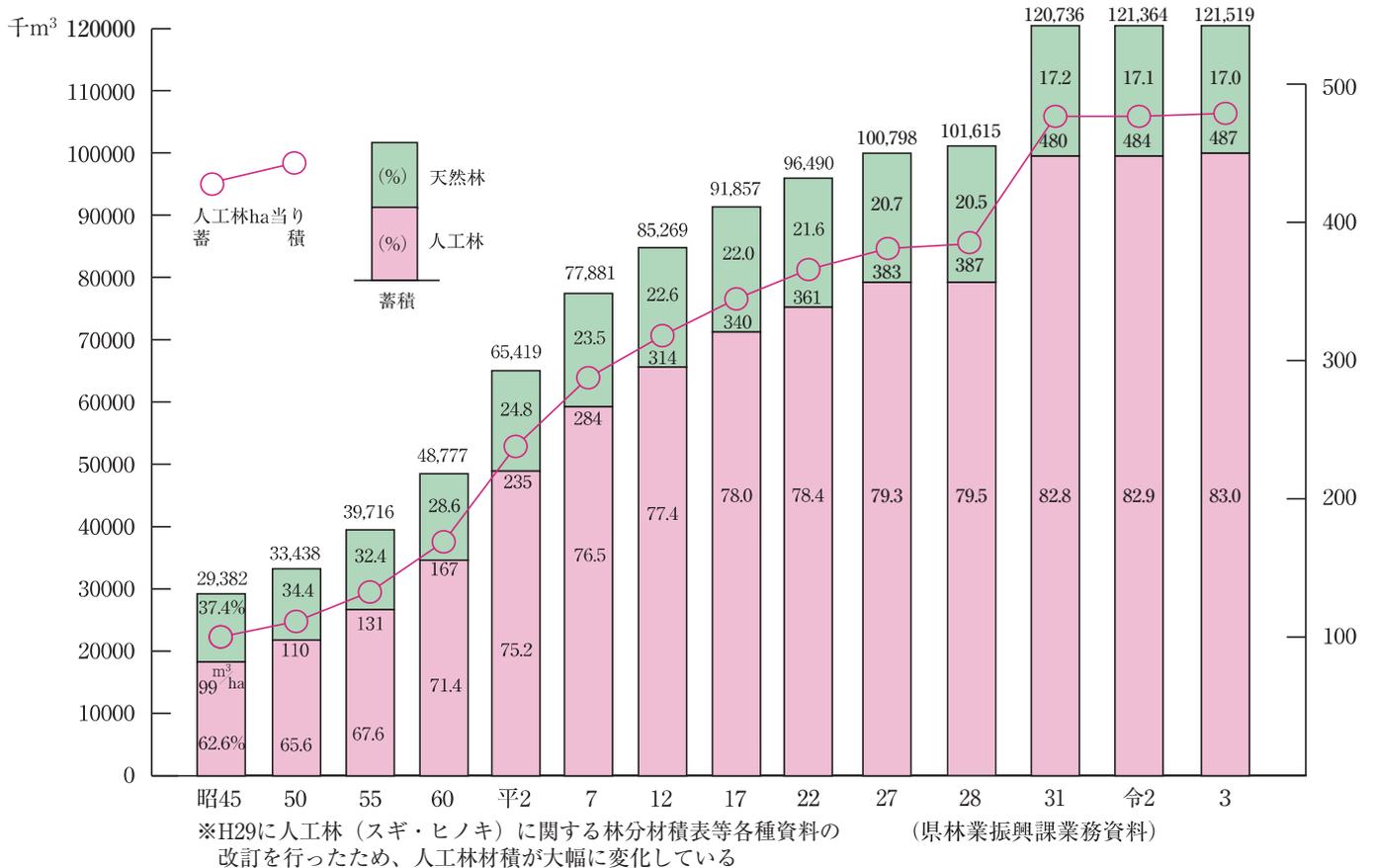
県の森林面積 361,253ha のうち、国有林は 4.7%、民有林は 95.3%です。県の森林面積の 57.3%が人工林です。



(県林業振興課業務資料)

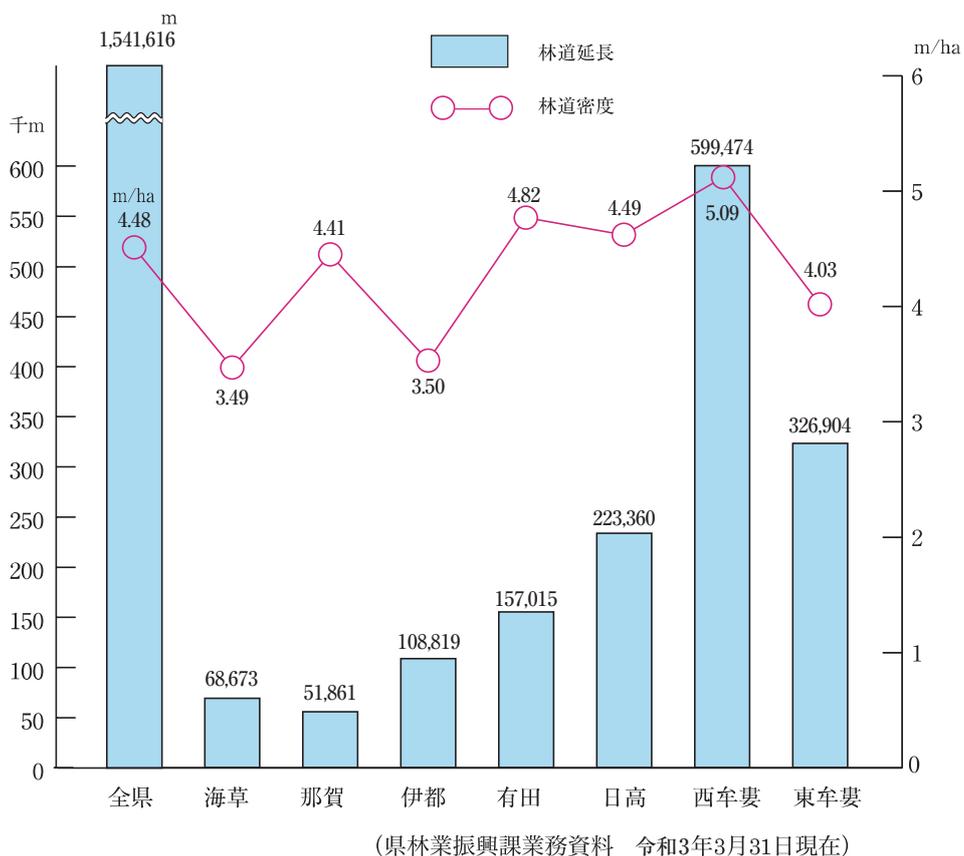
森林資源（私有林蓄積）の推移（地域森林計画対象森林：343,057ha）

戦後植林された森林資源が成熟している。



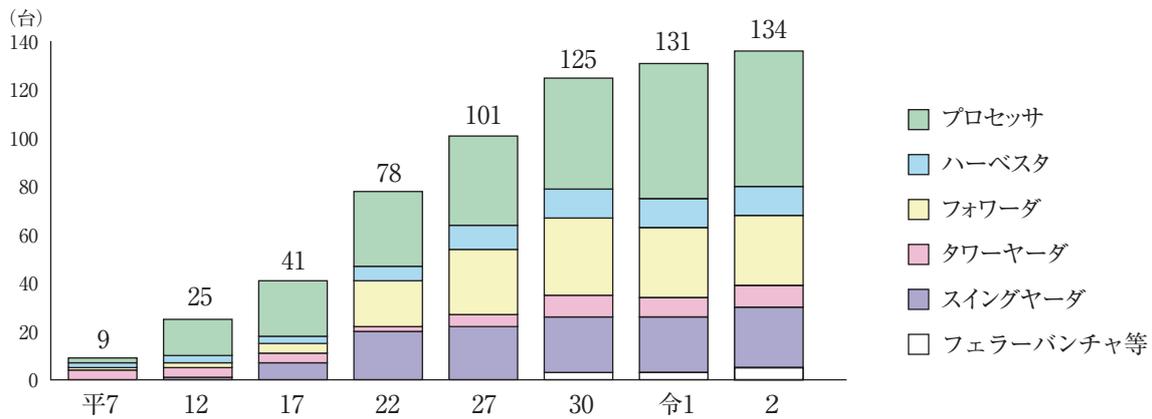
地域別私有林林道延長及び林道密度（令3.3.31現在）

生産コストの縮減をはかるため、林道密度を高める必要がある。



高性能林業機械保有台数 (令 3.3.31 現在)

低コスト林業を推進するため、高性能林業機械の導入を進めている。



単位：台

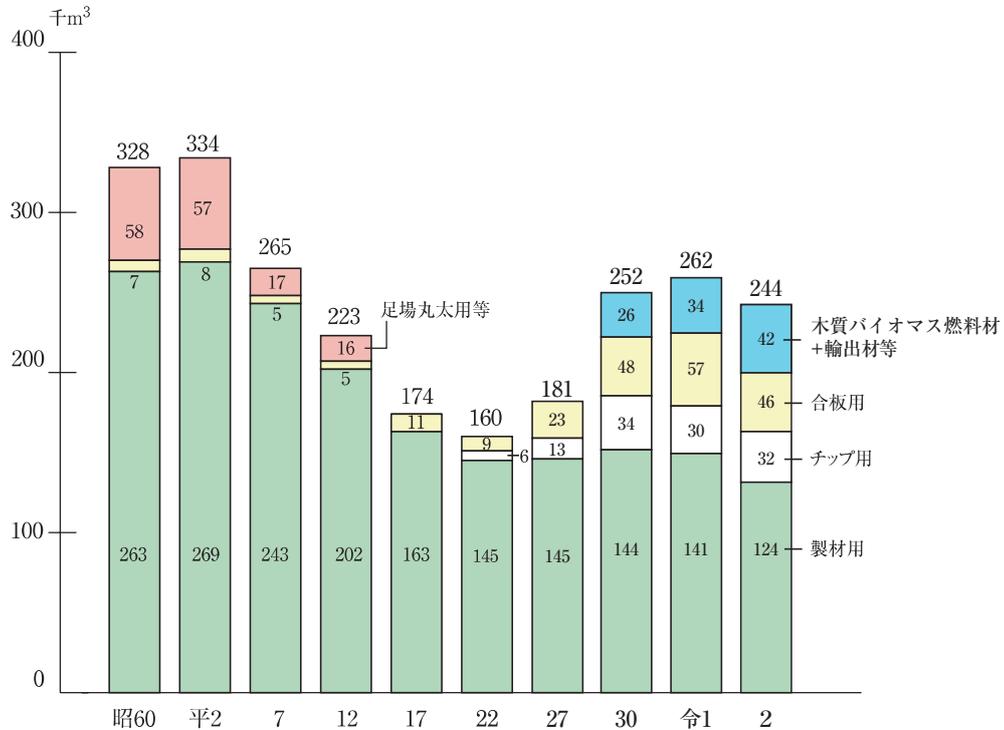
機械種名	平7	12	17	22	26	27	29	30	令1	2
プロセッサ	2	15	23	31	31	37	41	46	56	54
ハーベスタ	2	3	3	6	10	10	10	12	12	12
フォワーダ	1	2	4	19	25	27	31	32	29	29
タワーヤーダ	4	4	4	2	5	5	7	9	8	9
スイングヤーダ		1	7	20	22	22	22	23	23	25
フェラーバンチャ等							3	3	3	5
計	9	25	41	78	93	101	114	125	131	134

(県林業振興課業務資料)

3) 林業生産

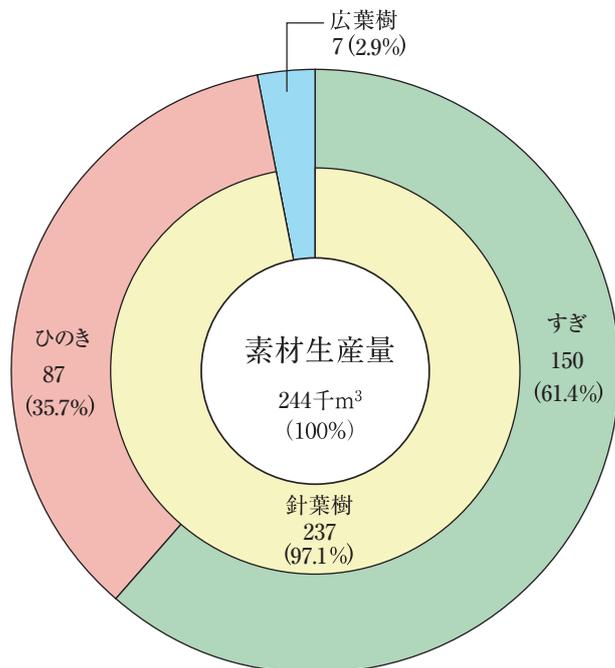
近年では、合板用や木質バイオマス用など木材の用途が増え木材生産活動は、増大傾向である。令和2年度は新型コロナの影響により素材生産量が減少した。

用途別素材生産量の推移



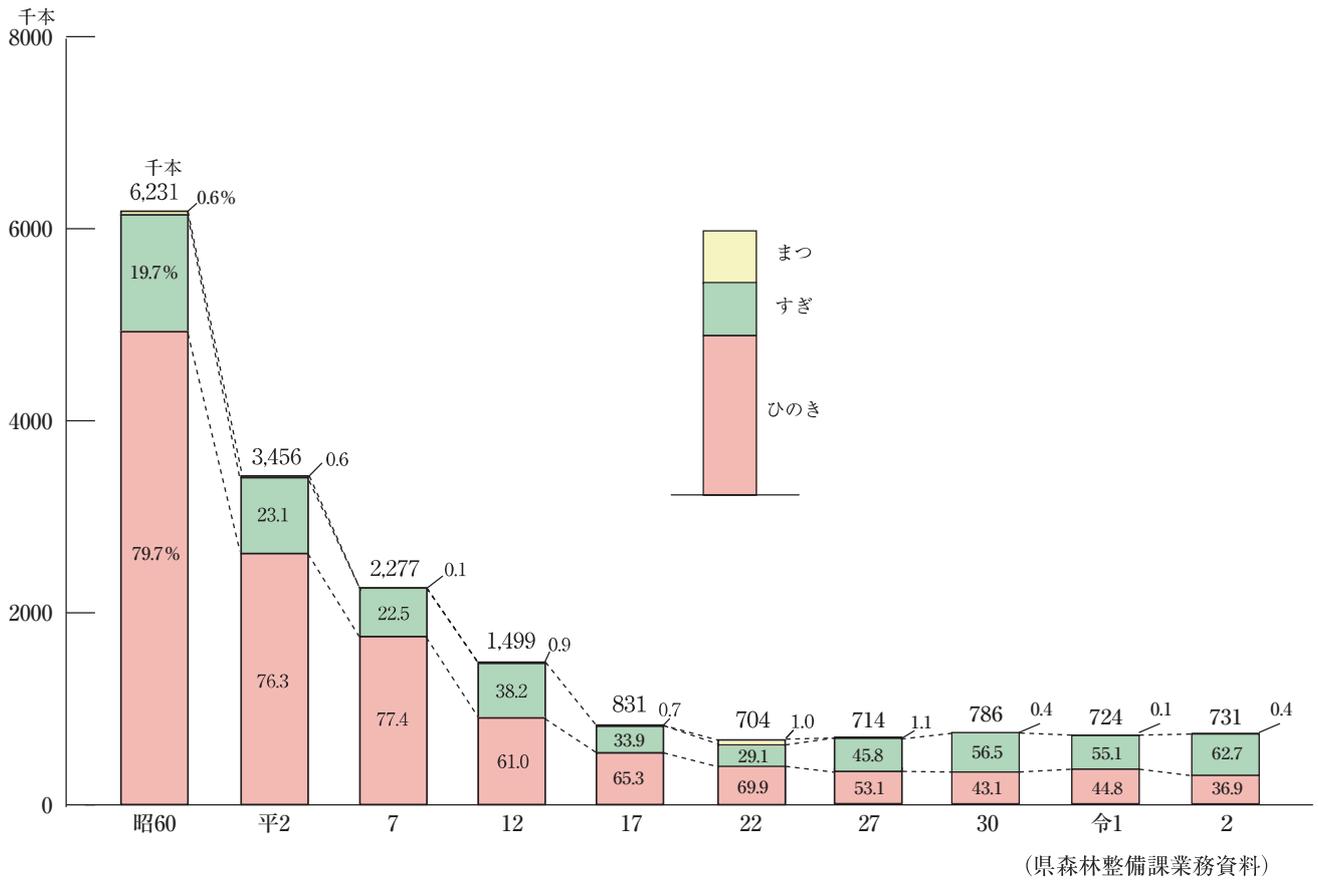
※H28から木質バイオマス燃料材+輸出材等を (木材需給報告書、木質バイオマスエネルギー利用動向調査、
集計に追加しました。 県林業振興課業務資料)

樹種別素材生産量 (令2)

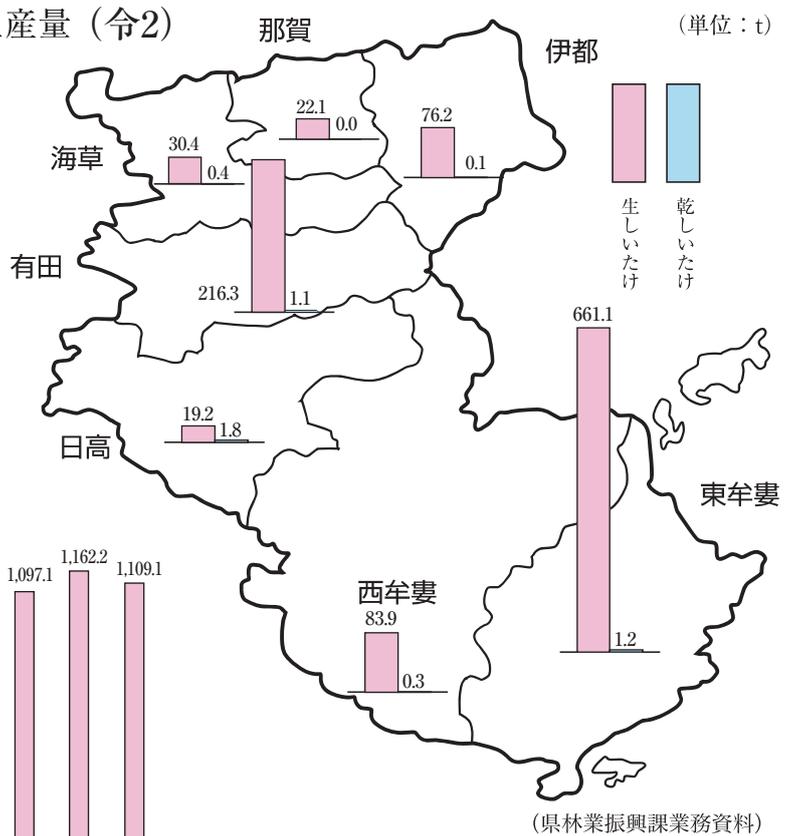


(県林業振興課業務資料)

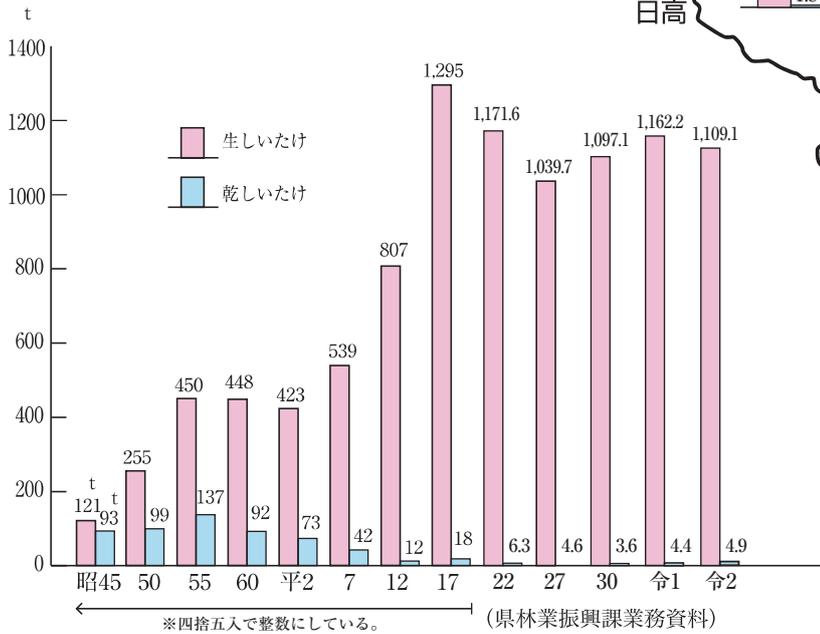
山用種苗生産本数の推移



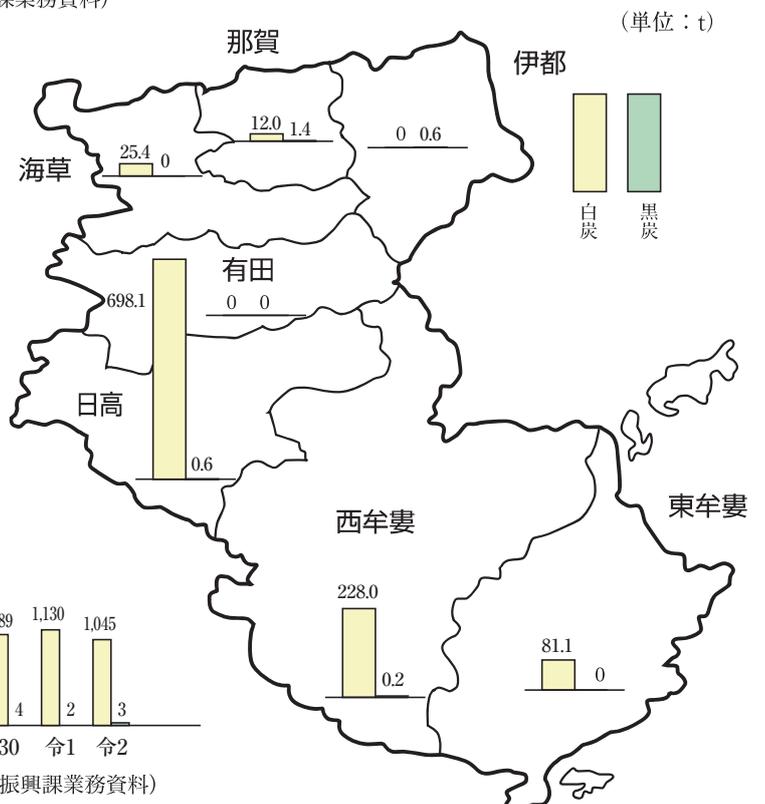
地域別・しいたけ生産量（令2）



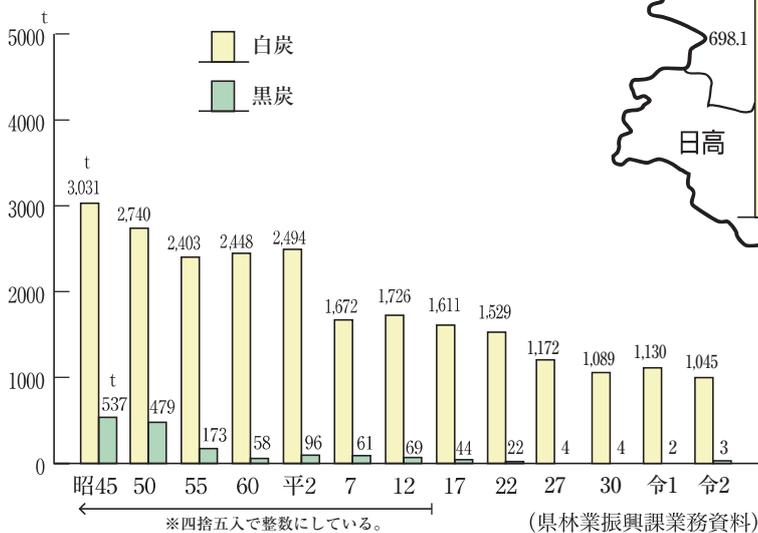
しいたけ生産量の推移



地域別・木炭生産量（令2）

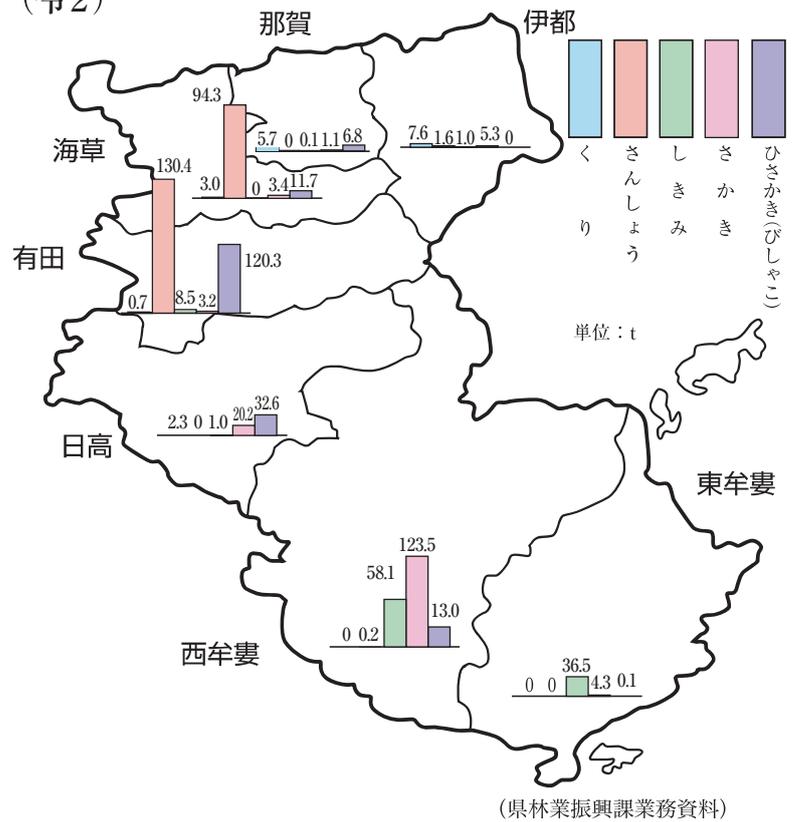


木炭生産量の推移

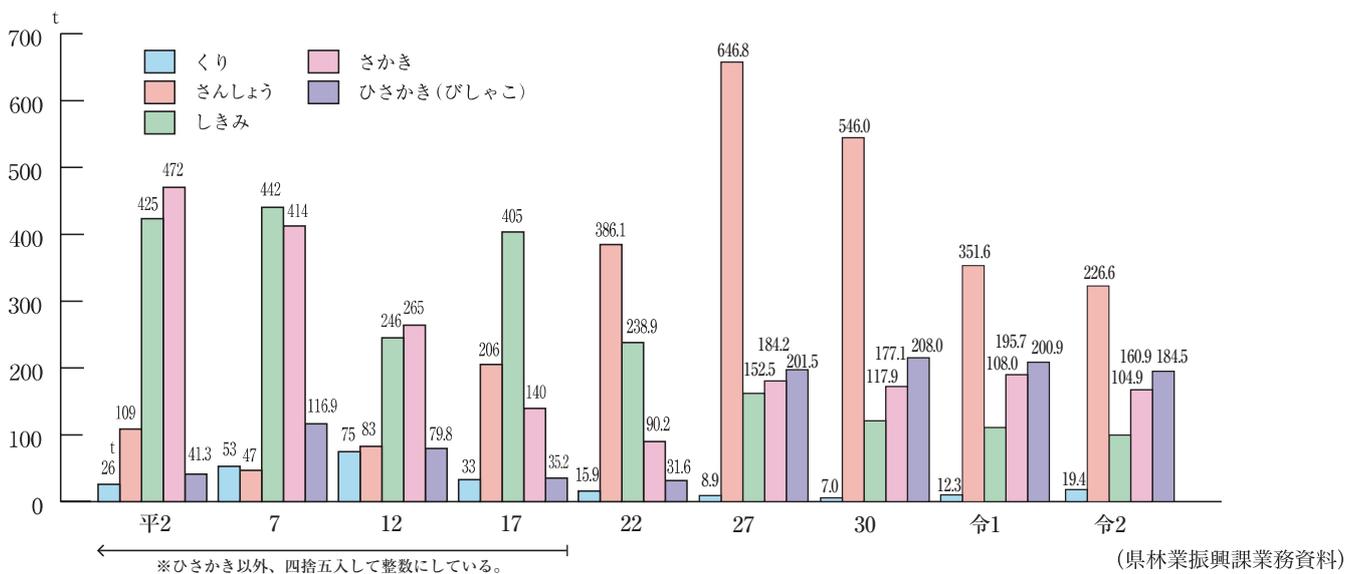


木材による収入が減少する中、副収入源であった特用林産物の収入に占める割合が増加してきた。

地域別・その他特用林産物生産量（令2）



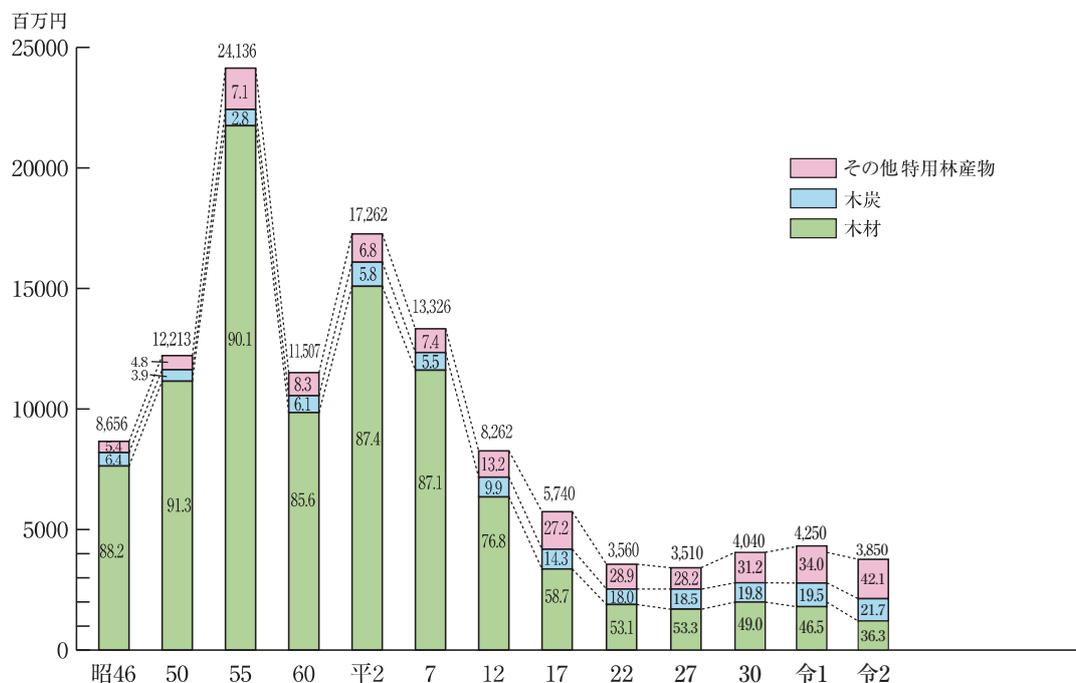
その他の特用林産物生産量の推移



4) 林業産出額

素材価格がピークであった昭和55年から減少後、平成27年以降からは増加傾向にある。令和2年は素材生産量が減少したことなどから前年と比較して、4億円減少している。

林業産出額の推移



(林業産出額)

※枠内の数字はパーセントを表す

産出額

〔令2〕 (千万円)		全国	和歌山県		1位	2位	3位	
		実数	実数	順位	シェア(%)	県名	県名	県名
林業 産出額	総計	42,864	385	30	0.9	長野	新潟	北海道
	木材生産	19,437	140	31	0.7	北海道	宮崎	岩手
	特用林産物	23,427	246	22	1.1	長野	新潟	福岡

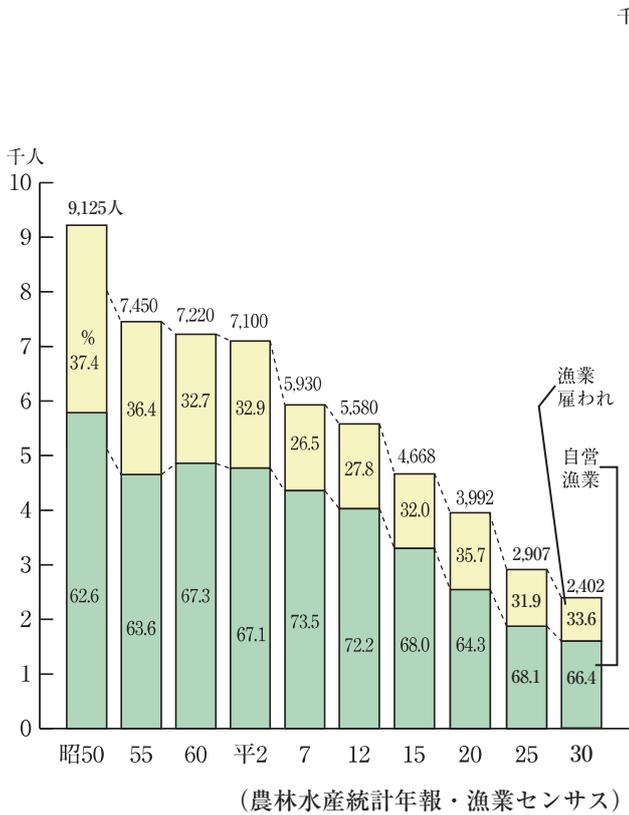
(R2林業産出額)

3 水産部門

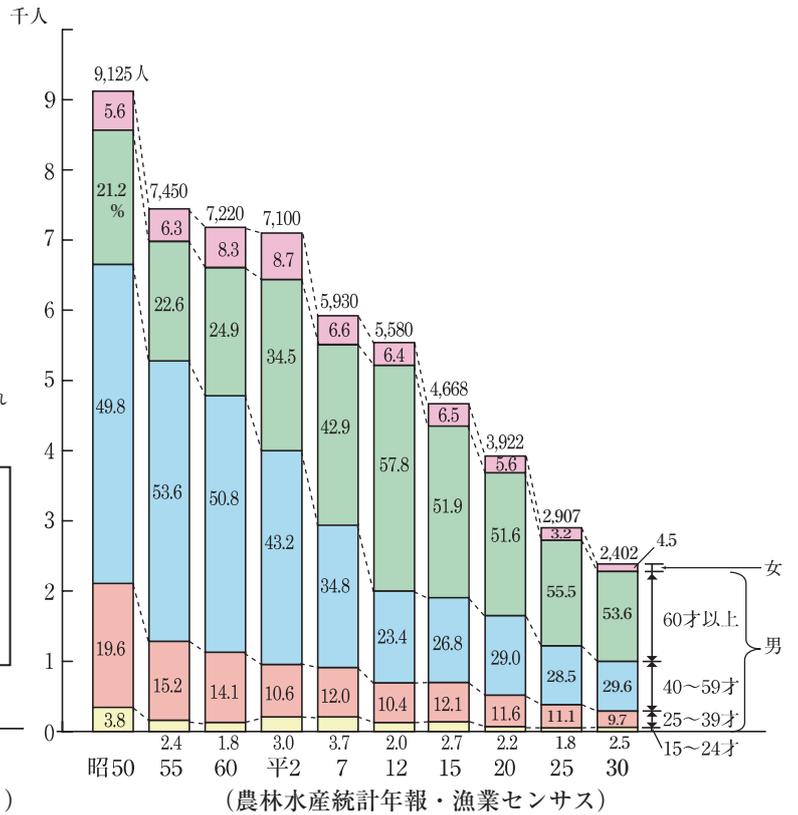
1) 水産業を担う人々

漁業就業者数は減少傾向で推移しており、平成30年は2,402人である。
 また、漁業就業者のうち年齢別では60才以上の男子就業者が53.6%を占め、高齢化が進んでいる。

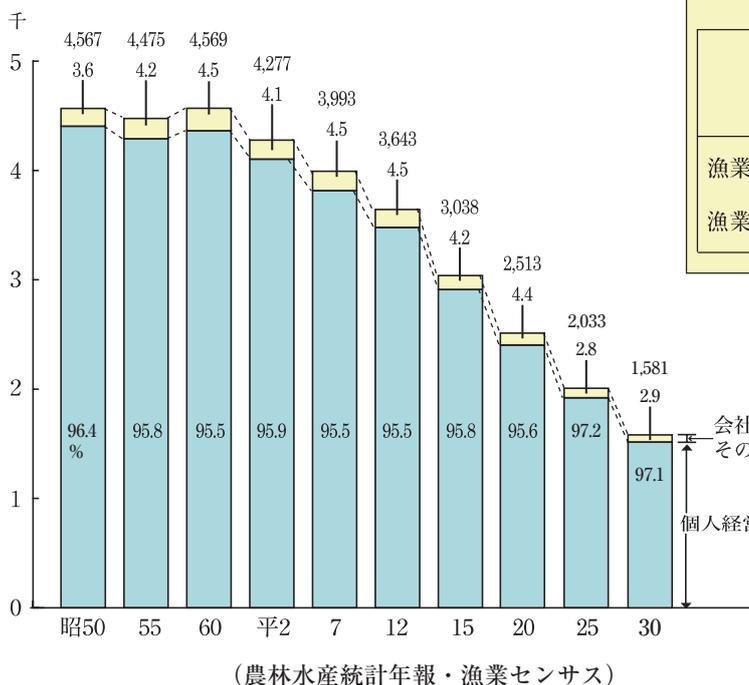
漁業就業者数の推移



年齢区分別漁業就業者数の推移



漁業経営体数の推移



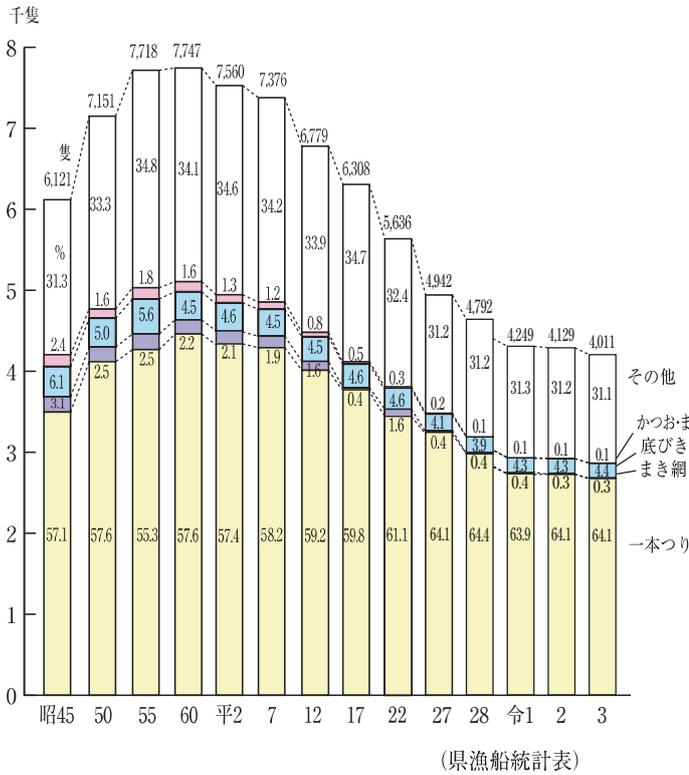
[平30]	全国	和歌山県		
	実数	実数	順位	シェア (%)
漁業経営体数	79,067	1,581	21	2.0
漁業就業者数(人)	151,701	2,402	23	1.6

(2018年漁業センサス)

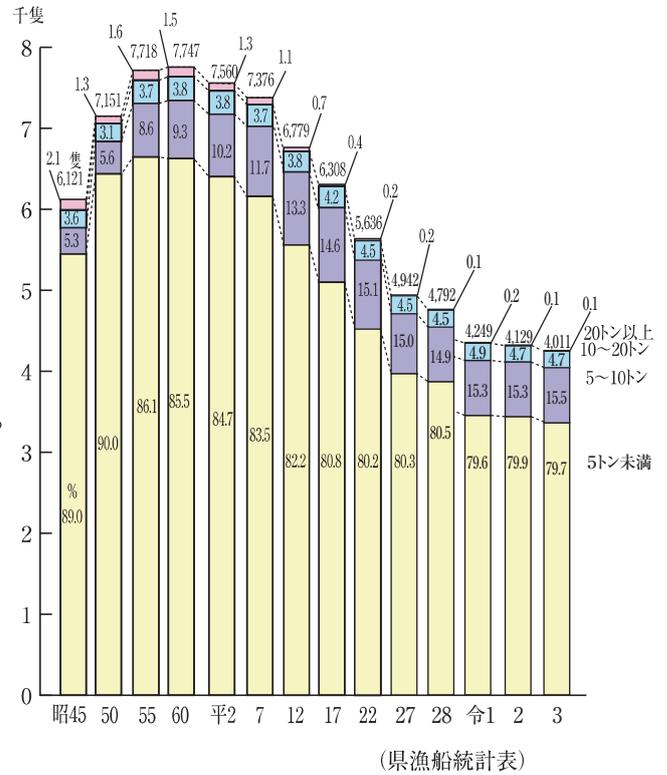
2) 水産業の基盤

海水動力漁船数は昭和60年をピークに減少傾向にあり、令和3年12月末日現在では4,011隻となっている。漁業種別では「一本つり」が64.1%、「底びき網」4.4%である。トン数別では5t未満の小型漁船が79.7%と大半を占めている。

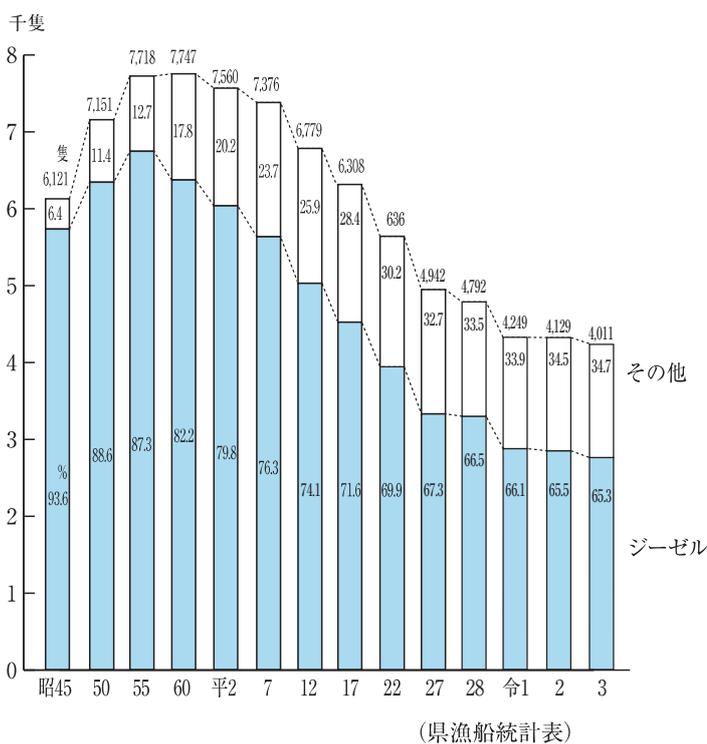
漁業種別海水動力漁船数の推移



トン数階層別海水動力漁船数の推移



機関種別海水動力漁船数の推移



漁港の現況

本県には、94港（全国2,785港）の漁港（令和3年4月1日現在）と、119地区（全国4,492地区）の漁港背後集落（令和2年度末時点）がある。また、漁港の種類は、その利用範囲によって下表のように分類されている。

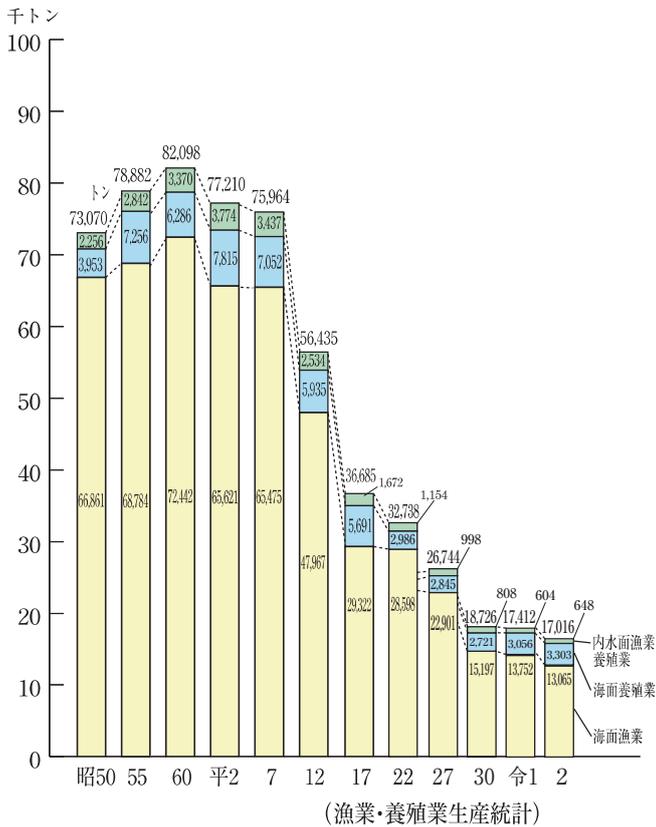
種別	漁港合計	分類の説明
第1種漁港	77	利用範囲が地元の漁業を主とするもの
第2種漁港	11	利用範囲が1種より広く3種に属さないもの
第3種漁港	4	利用範囲が全国的なもの
第4種漁港	2	漁船の避難上特に必要なもの
港合計	94	

3) 水産業の生産

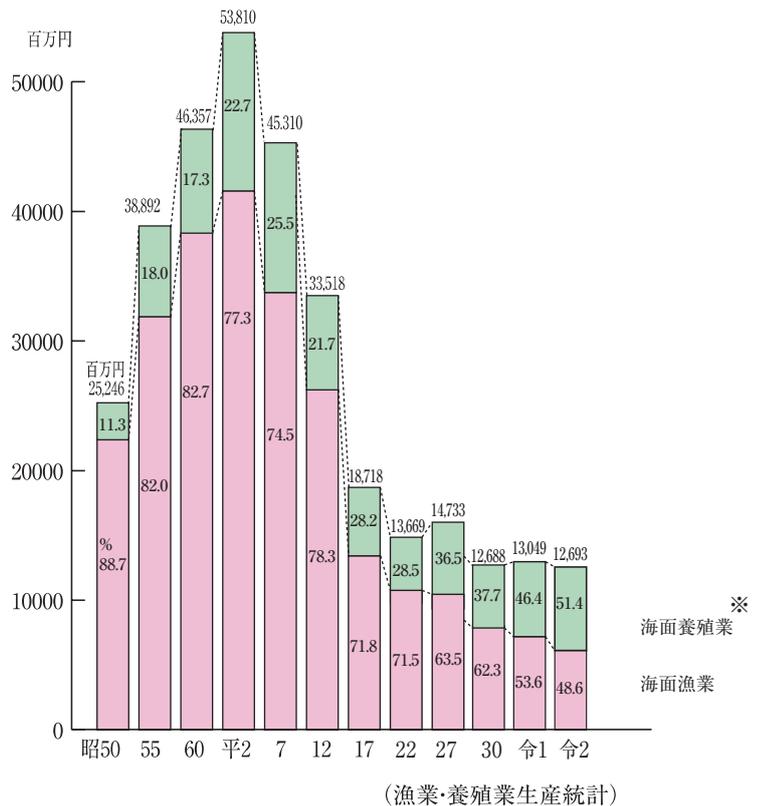
海面漁業・養殖業の生産量は昭和61年の88,108 tをピークに減少傾向にあり、令和2年は16,368 tとなっている。

海面漁業・養殖業産出額は平成2年をピークに減少傾向であり、令和2年は126億93百万円となっている。

漁業・養殖業部門別生産量の推移



海面漁業・養殖業産出額の推移



※海面養殖業産出額については、平成29年より種苗の産出額が計上されないこととなり、平成19年以降の数値は種苗の産出額が含まれないものに修正されたため、平成18年以前と平成19年以降は連続しない。

生産量

〔令2〕	全国	和歌山県		1位	2位	3位	
	(t)	実数	順位	シェア(%)	県名	県名	県名
海面漁業	3,213,334	13,065	30	0.41	北海道	茨城	長崎
魚類	2,601,770	12,180	28	0.47	北海道	茨城	長崎
えび・かに・いか・たこ	147,865	409	36	0.28	北海道	青森	兵庫
貝類	382,404	40	38	0.01	北海道	愛知	千葉
海藻類	63,392	283	18	0.45	北海道	愛知	大分
海面養殖業	969,649	3,303	23	0.34	広島	北海道	宮城

産出額

〔令2〕	全国	和歌山県		1位	2位	3位	
	(百万円)	実数	順位	シェア(%)	県名	県名	県名
海面漁業	773,483	6,164	27	0.80	北海道	長崎	宮城
海面養殖業	436,847	6,529	19	1.49	愛媛	鹿児島	長崎

Ⅲ 農林水産関係施策を行っている主な課室

農 林 水 産 部

課 室 名		業 務 概 要	電話番号	メールアドレス
農林水産政策局	農林水産総務課	農林水産業振興施策の総合的企画・調整・検査	073-441-2862	e0701002@pref.wakayama.lg.jp
	研究推進室	農林水産関連試験研究の統括	073-441-2997	e0701003@pref.wakayama.lg.jp
	里地・里山振興室	里地・里山などの農村環境の保全及び活用、農業遺産の推進	073-441-2943	e0701004@pref.wakayama.lg.jp
	食品流通課	農産物をはじめとする県産品の販路拡大・流通対策、輸出対策	073-441-2817	e0717001@pref.wakayama.lg.jp
	農業農村整備課	土地改良法関係、施設管理、農業農村整備の計画・調整、農業基盤・農村環境・農地の保全施設等の整備	073-441-2940	e0705001@pref.wakayama.lg.jp
農業生産局	果樹園芸課	農産物の生産振興、農業の施設整備支援、都市農村交流の推進、食育の推進	073-441-2900	e0703001@pref.wakayama.lg.jp
	農業環境・鳥獣害対策室	環境保全型農業・肥料・農薬の適正使用、鳥獣害対策、適正狩猟の推進	073-441-2905	e0703002@pref.wakayama.lg.jp
	畜産課	畜産業振興、家畜伝染病予防・防疫畜産環境保全整備、家畜衛生の推進	073-441-2920	e0704001@pref.wakayama.lg.jp
	経営支援課	農協等の指導、金融支援、農業の担い手確保・育成、農地の活用、農業技術・経営の普及指導	073-441-2881	e0709001@pref.wakayama.lg.jp
林業局・森林局	林業振興課	林業振興のための企画・指導、紀州材の需要拡大山村資源の活用、山村地域の生活環境整備	073-441-2960	e0706001@pref.wakayama.lg.jp
	森林整備課	森林の造成・保全、山地災害の防止、企業の森、緑化促進、紀の国森づくり基金の活用	073-441-2972	e0707001@pref.wakayama.lg.jp
水産局	水産振興課	水産業振興のための企画・指導・支援等	073-441-3000	e0710001@pref.wakayama.lg.jp
	資源管理課	水産資源の管理・保護、漁業取締・調整・許可等	073-441-3010	e0715001@pref.wakayama.lg.jp

他部局関係課室

企 画 部

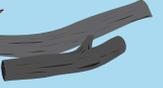
課 室 名		業 務 概 要	電話番号	メールアドレス
地域振興局	移住定住推進課	半島地域の振興促進 過疎地域の持続的発展 移住定住の推進	073-441-2426	e0222001@pref.wakayama.lg.jp

環 境 生 活 部

課 室 名		業 務 概 要	電話番号	メールアドレス
県民局	食品・生活衛生課	食の安全・安心の確保、生活衛生関係営業指導、動物愛護及び管理の推進、水道の整備及び管理指導	073-441-2635	e0316001@pref.wakayama.lg.jp

県 土 整 備 部

課 室 名		業 務 概 要	電話番号	メールアドレス
県土整備政策局	検査・技術支援課	農林水産関連の工事検査	073-441-3260	e0816001@pref.wakayama.lg.jp
道路局	道路建設課	道路（農林道を含む）の整備	073-441-3097	e0802001@pref.wakayama.lg.jp
河川・下水道局	下水道課	汚水処理施設の整備促進（農業集落排水を含む）	073-441-3203	e0810001@pref.wakayama.lg.jp
港湾空港局	港湾漁港整備課	漁港・漁港海岸の整備、漁村環境の整備	073-441-3021	e0825001@pref.wakayama.lg.jp



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
農産物												
みかん	■								■			
うめ					■							
かき	■								■			
もも						■						
えんどうまめ	■									■		
しょうが					■				施設		露地	
林産物												
さんしょう					■							
みょうが							■					
せんりょう											■	
水産物												
まぐろ	■											■
かつお		■										
たちうお						■						
いせえび	■										■	

県の花

うめ



梅はバラ科に属し、古くから紀南地方を中心に栽培されています。2月から3月にかけて美しい花を咲かせ、香りもすばらしく、春を告げる花として親しまれています。

県の鳥

めじろ



メジロ科、日本特有の小鳥で本県に多く、古くから県民に親しまれています。ウグイス、ヤマガラなどとともに、保護鳥に指定されています。

県の木

うばめがし



ブナ科の常緑樹で、紀南地方に特に多く見られます。高温多湿を好みますが、耐乾性も強く生命力の強い木として知られています。紀州備長炭の原木です。

県の魚

まぐろ



サバ科に属し、なかでもクロマグロが代表的。樺太、北海道以南、フィリピンにまで分布し、刺身として極めて美味でトロは有名。クロマグロは全長3mに達します。